

## 第5章 職業の量的変化と内容面の変化

### 1. 趣旨と目的

職業の現場は常に変化している。このような職業の現状や変化を即時的に捉えることは、職業選択や進路選択に資するより有益な情報を作成し、また職業についての趨勢的变化を捉えるために重要であるが、現実的には種々の困難があった。個別の職業の状況を直接把握している団体等がすべての職業について存在しているとは限らない。また、大規模な調査は技術的に難しく、情報収集し、分析しおえた頃にはまた、職業の現場は変化しているという事態も起こりかねなかった。しかし、インターネットによる Web 調査が使えるようになり、調査にかかる経費や時間を抑え、リアルタイムに近い状態で現状を把握することが可能となってきた。このような現状認識・目的意識から、就業者 Web 調査を実施し、第4章では職業の現状に関して収集されたデータを分析したが、本章では、同調査のなかで、職業の現場の変化について尋ねた項目を対象とし、どのように変化しているか検討する。

方法としては、今回得られた 26,586 名のデータを分析する。調査の手続きおよび調査対象者の属性他は第2章と第3章にある。

職業の人数等量的変化をみるために「現職の人数等の変化」18項目、職業の内容面の変化をみるため「現職の変化」28項目を用いた。具体的な設問内容と選択肢を図表 5-1 に示す。各設問に対して、調査対象者の現在の職業について、自分の周囲で同じ職業についている人の状況などをもとにして回答してもらっている。

図表 5-1 本分析で使用した変化に関する設問の内容

| 項目                    | 項目番号                                | 設問  | 選択肢   |
|-----------------------|-------------------------------------|---|---|
| Q3S1<br>現職の人数等<br>の変化 | 1                                   | 自分と同じ職業では30歳以下の人が～                        | 増加傾向<br>やや増加傾向<br>変わらない<br>やや減少傾向<br>減少傾向<br>継続的にいない<br>わからない |
|                       | 2                                   | 自分と同じ職業では60歳以上の人が～                        |   |
|                       | 3                                   | 自分と同じ職業では女性が～                             |   |
|                       | 4                                   | 自分と同じ職業では女性管理職が～                          |   |
|                       | 5                                   | 自分と同じ職業では外国人が～                            |   |
|                       | 6                                   | 自分と同じ職業では高齢者の採用が～                         |   |
|                       | 7                                   | 自分と同じ職業では障害者の採用が～                         |   |
|                       | 8                                   | 自分と同じ職業では正社員が～                            |   |
|                       | 9                                   | 自分と同じ職業では非正規社員(パート、アルバイト)が～               |   |
|                       | 10                                  | 自分と同じ職業では非正規社員(派遣)が～                      |   |
|                       | 11                                  | 自分と同じ職業では非正規社員(契約)が～                      |   |
|                       | 12                                  | 自分の職業では独立・開業する人やフリーランスになる人が～              |   |
|                       | 13                                  | 自分の職業では自宅で仕事をする人が～                        |   |
|                       | 14                                  | 自分の職業では自宅以外の場所をレンタルして仕事をする人が～             |   |
|                       | 15                                  | 自分と同じ職業の人の人数は全体として～                       |   |
|                       | 16                                  | 自分と同じ職業では収入が全体的に～                         |   |
|                       | 17                                  | 自分の職業では最近(ここ1、2年)、仕事量が～                   |   |
|                       | 18                                  | 自分の職業では最近(ここ1、2年)、残業が～                    |   |
| Q3S2<br>現職の変化         | 1                                   | 自分の職業では仕事のテンポ・サイクルが速くなっている                | Yes<br>ややYes<br>どちらともいえない<br>ややNo<br>No<br>わからない              |
|                       | 2                                   | 自分の職業では、様々なことをしなくてはならない等仕事の範囲が広がっている      |   |
|                       | 3                                   | 自分の職業では、仕事が特定の分野に特化、専門化してきている             |   |
|                       | 4                                   | 自分の職業では以前よりもマニュアル化、定式化が進んでいる              |   |
|                       | 5                                   | 自分の職業では以前よりも各人の創意工夫が求められるようになっている         |   |
|                       | 6                                   | 自分の職業では、より高い専門性や高度なスキルが求められるようになっている      |   |
|                       | 7                                   | 自分の職業では、仕事をするために、新しいことを学ぶ必要が増えている         |   |
|                       | 8                                   | 自分の職業では、仕事の変化が早くなりついて行くのが難しくなっている         |   |
|                       | 9                                   | 自分の職業ではIT化、機械化等により、より心身の負担が軽減している         |   |
|                       | 10                                  | 自分の職業では作業の自動化により、必要人員が減少している              |   |
|                       | 11                                  | 自分の職業では経験から得られるカン・コツやノウハウが以前より重要になっている    |   |
|                       | 12                                  | 自分の職業では後継者不足や技能・ノウハウの伝承が問題になっている          |   |
|                       | 13                                  | 自分の職業では、IT(PC、情報機器、ネット)の利用活用が重要になっている     |   |
|                       | 14                                  | 自分の職業では、ソーシャルメディア等ネットでの人と人とのつながりが重要になっている |   |
|                       | 15                                  | 自分の職業では、仕事で英語を使うことが多くなっている                |   |
|                       | 16                                  | 自分の職業では、よりレベルの高い英語力が必要になっている              |   |
|                       | 17                                  | 自分の職業では、中国語が必要なことが多くなっている                 |   |
|                       | 18                                  | 自分の職業では、英語、中国語以外の外国語が必要になっている             |   |
| 19                    | 自分の職業では、関係者とチームで働くことが多くなっている        |   |   |
| 20                    | 自分の職業では、関係者とチームで働くことが重要になっている       |   |   |
| 21                    | 自分の職業では、同業他社や関係者との情報交換が重要になっている     |   |   |
| 22                    | 自分の職業では、人脈を広げることが仕事をする上で重要になっている    |   |   |
| 23                    | 自分の職業では、顧客との関係で神経を使うことが多くなっている      |   |   |
| 24                    | 自分の職業では、顧客との間でトラブル処理が重要になっている       |   |   |
| 25                    | 自分の職業では、評価が行われ、それが給与や報酬に反映されるようになった |   |   |
| 26                    | 自分の職業では、評価が以前よりも厳しくなっている            |   |   |
| 27                    | 自分の職業では、成果を数字で求められるようになった           |   |   |
| 28                    | 自分の職業では、より短期間で成果を求められるようになった        |   |   |

## 2. 人数等職業の量的な変化

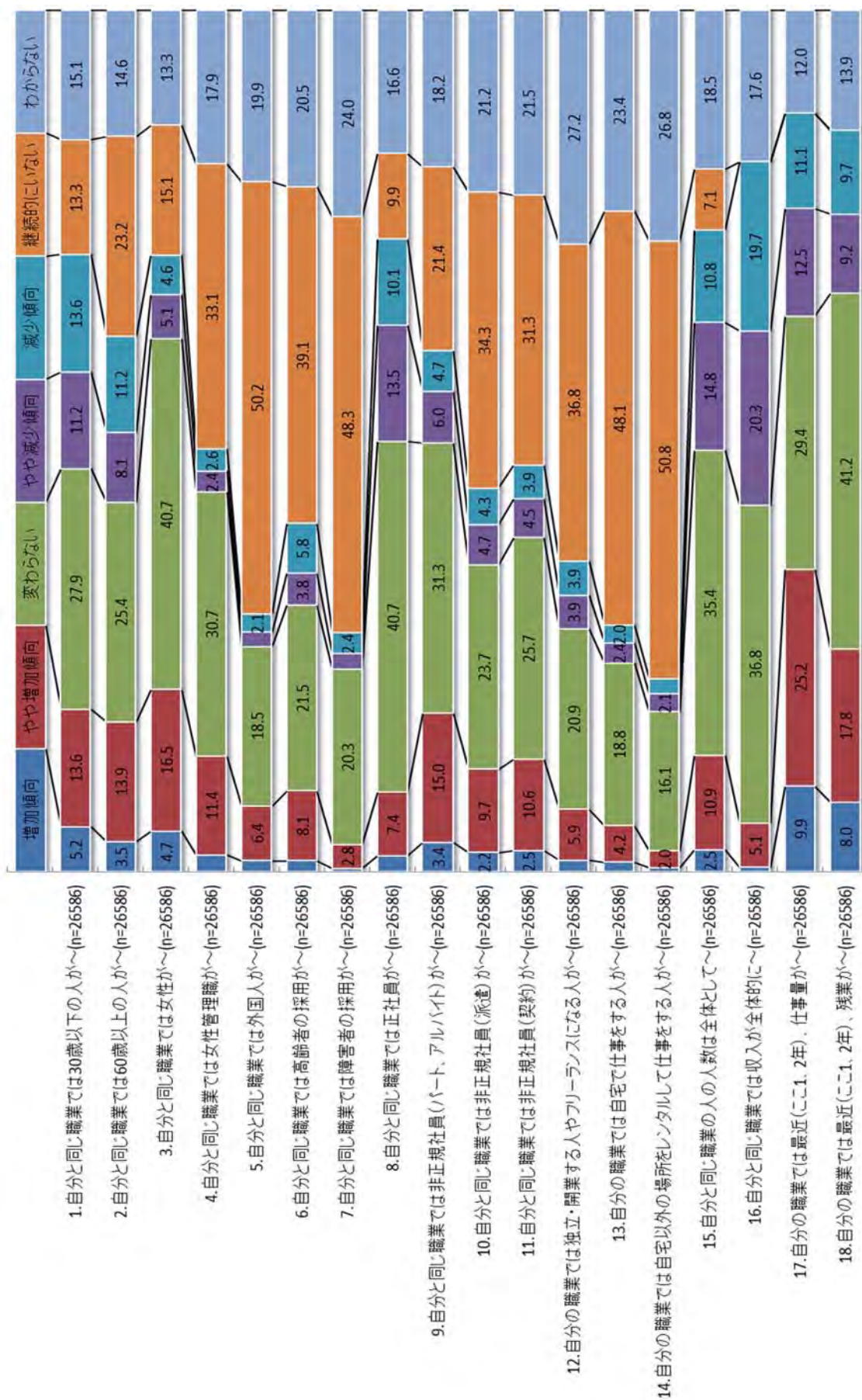
現職の人数等の変化を尋ねる 18 項目について、全設問における全体の度数分布を図表 5-2 と図表 5-3 に示す。「3.自分と同じ職業では女性が～」は「変わらない」が最も多いものの、「増加傾向」と「やや増加傾向」を加えた割合が比較的大きく、「減少傾向」と「やや減少傾向」を加えた割合が小さかった。一般に、女性の採用は従来と変わらない～増えている傾向にあるといえる。また、「17.自分の職業では最近(ここ1、2年)、仕事量が～」、「18.自分の職業では最近(ここ1、2年)、残業が～」は、「増加傾向」または「やや増加傾向」と回答した割合が大きかった。一方、「8.自分と同じ職業では正社員が～」、「16.自分と同じ職業では収入が全体的に～」では「増加傾向」または「やや増加傾向」が小さく、「減少傾向」または「やや減少傾向」が大きいうという結果であった。「8.自分と同じ職業では正社員が～」と比較すると、「9.自

分と同じ職業では非正規社員（パート、アルバイト）が～」、「10. 自分と同じ職業では非正規社員（派遣）が～」、「11. 自分と同じ職業では非正規社員（契約）が～」で「増加傾向」と「やや増加傾向」が大きく、「減少傾向」と「やや減少傾向」が小さかった。全般的にみて、正社員数が変わらないか減っており、対照的に、非正規社員は変わらないかやや増加している割合が高い。収入も減少している傾向がみられた。また、「5.自分と同じ職業では外国人が～」、「7. 自分と同じ職業では障害者の採用が～」、「13.自分の職業では自宅で仕事をする人が～」、「14. 自分の職業では自宅以外の場所をレンタルして仕事をする人が～」で「継続的にいない」と回答した割合が大きく、「変わらない」も相対的に大きかった。

図表 5-2 現職の人数等の変化における全体の度数分布 (n=26, 586)

|                                      | 増加傾向         | 増加や傾向         | 変わらない          | 減少や傾向         | 減少傾向          | 継続的に           | わからない         | 計               |
|--------------------------------------|--------------|---------------|----------------|---------------|---------------|----------------|---------------|-----------------|
| 1.自分と同じ職業では30歳以下の人が～                 | 1,386<br>5.2 | 3,619<br>13.6 | 7,427<br>27.9  | 2,985<br>11.2 | 3,626<br>13.6 | 3,538<br>13.3  | 4,005<br>15.1 | 26,586<br>100.0 |
| 2.自分と同じ職業では60歳以上の人が～                 | 925<br>3.5   | 3,698<br>13.9 | 6,764<br>25.4  | 2,162<br>8.1  | 2,973<br>11.2 | 6,170<br>23.2  | 3,894<br>14.6 | 26,586<br>100.0 |
| 3.自分と同じ職業では女性が～                      | 1,240<br>4.7 | 4,380<br>16.5 | 10,819<br>40.7 | 1,359<br>5.1  | 1,222<br>4.6  | 4,018<br>15.1  | 3,548<br>13.3 | 26,586<br>100.0 |
| 4.自分と同じ職業では女性管理職が～                   | 510<br>1.9   | 3,040<br>11.4 | 8,163<br>30.7  | 645<br>2.4    | 682<br>2.6    | 8,791<br>33.1  | 4,755<br>17.9 | 26,586<br>100.0 |
| 5.自分と同じ職業では外国人が～                     | 340<br>1.3   | 1,692<br>6.4  | 4,909<br>18.5  | 461<br>1.7    | 547<br>2.1    | 13,335<br>50.2 | 5,302<br>19.9 | 26,586<br>100.0 |
| 6.自分と同じ職業では高齢者の採用が～                  | 340<br>1.3   | 2,155<br>8.1  | 5,717<br>21.5  | 997<br>3.8    | 1,531<br>5.8  | 10,394<br>39.1 | 5,452<br>20.5 | 26,586<br>100.0 |
| 7.自分と同じ職業では障害者の採用が～                  | 102<br>0.4   | 733<br>2.8    | 5,403<br>20.3  | 493<br>1.9    | 644<br>2.4    | 12,838<br>48.3 | 6,373<br>24.0 | 26,586<br>100.0 |
| 8.自分と同じ職業では正社員が～                     | 492<br>1.9   | 1,958<br>7.4  | 10,816<br>40.7 | 3,588<br>13.5 | 2,676<br>10.1 | 2,634<br>9.9   | 4,422<br>16.6 | 26,586<br>100.0 |
| 9.自分と同じ職業では<br>非正規社員(パート、アルバイト)が～    | 897<br>3.4   | 3,994<br>15.0 | 8,331<br>31.3  | 1,602<br>6.0  | 1,246<br>4.7  | 5,677<br>21.4  | 4,839<br>18.2 | 26,586<br>100.0 |
| 10.自分と同じ職業では<br>非正規社員(派遣)が～          | 589<br>2.2   | 2,573<br>9.7  | 6,299<br>23.7  | 1,237<br>4.7  | 1,132<br>4.3  | 9,132<br>34.3  | 5,624<br>21.2 | 26,586<br>100.0 |
| 11.自分と同じ職業では<br>非正規社員(契約)が～          | 652<br>2.5   | 2,814<br>10.6 | 6,839<br>25.7  | 1,195<br>4.5  | 1,045<br>3.9  | 8,328<br>31.3  | 5,713<br>21.5 | 26,586<br>100.0 |
| 12.自分の職業では独立・開業する人や<br>フリーランスになる人が～  | 347<br>1.3   | 1,575<br>5.9  | 5,563<br>20.9  | 1,039<br>3.9  | 1,045<br>3.9  | 9,785<br>36.8  | 7,232<br>27.2 | 26,586<br>100.0 |
| 13.自分の職業では<br>自宅で仕事をする人が～            | 293<br>1.1   | 1,121<br>4.2  | 5,010<br>18.8  | 634<br>2.4    | 542<br>2.0    | 12,778<br>48.1 | 6,208<br>23.4 | 26,586<br>100.0 |
| 14.自分の職業では自宅以外の場所を<br>レンタルして仕事をする人が～ | 121<br>0.5   | 527<br>2.0    | 4,281<br>16.1  | 565<br>2.1    | 466<br>1.8    | 13,504<br>50.8 | 7,122<br>26.8 | 26,586<br>100.0 |
| 15.自分と同じ職業の人の人数は<br>全体として～           | 674<br>2.5   | 2,911<br>10.9 | 9,413<br>35.4  | 3,945<br>14.8 | 2,859<br>10.8 | 1,876<br>7.1   | 4,908<br>18.5 | 26,586<br>100.0 |
| 16.自分と同じ職業では収入が全体的に～                 | 129<br>0.5   | 1,368<br>5.1  | 9,793<br>36.8  | 5,388<br>20.3 | 5,232<br>19.7 | 3<br>0.0       | 4,673<br>17.6 | 26,586<br>100.0 |
| 17.自分の職業では<br>最近(ここ1、2年)、仕事量が～       | 2,635<br>9.9 | 6,697<br>25.2 | 7,811<br>29.4  | 3,316<br>12.5 | 2,940<br>11.1 | 1<br>0.0       | 3,186<br>12.0 | 26,586<br>100.0 |
| 18.自分の職業では<br>最近(ここ1、2年)、残業が～        | 2,136<br>8.0 | 4,737<br>17.8 | 10,966<br>41.2 | 2,450<br>9.2  | 2,589<br>9.7  | 1<br>0.0       | 3,707<br>13.9 | 26,586<br>100.0 |

図表 5-3 現職の人数等の変化における回答の割合 (n=26, 586)



### 3. 業種、職種別の量的な変化

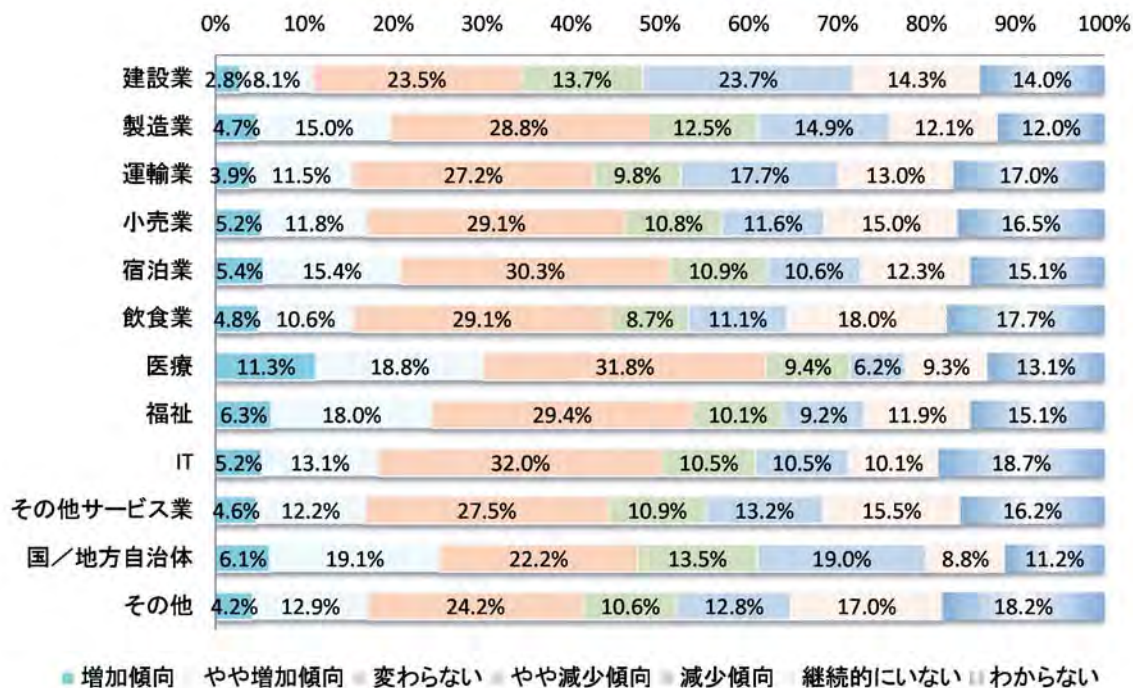
現職の人数等の変化を尋ねる 18 項目について、業種別、職種（厚生労働省編職業分類における職業大分類）別に回答の度数分布を求めた（図表 5-4～図表 5-39）。

業種別でみると、仕事量（図表 5-36）と残業量（図表 5-38）は様々な業種で増加している。なかでも、「国／地方自治体」において増加の割合が大きかった。「国／地方自治体」はパートやアルバイト（図表 5-20）、女性管理職（図表 5-10）に対しても高い増加傾向を示した。これらの設問に関して、「福祉」も「国／地方自治体」と類似したパターンを示した。また、「国／地方自治体」は収入（図表 5-34）や正社員数（図表 5-18）に関して減少しているという割合も大きかった。一方、「建設業」、「製造業」、「運輸業」で女性（図表 5-8）や女性管理職（図表 5-10）が継続的にいないと回答する割合が大きかった。

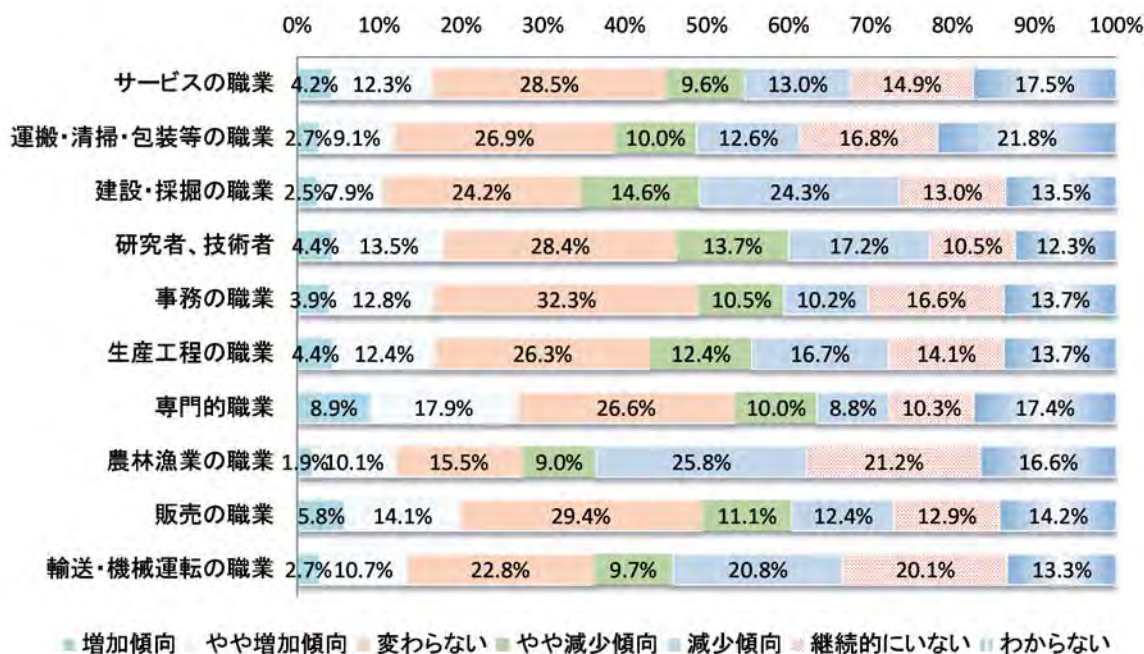
職種別にみると、特に「専門的職業」で変化が見られた。仕事量（図表 5-37）や残業量（図表 5-39）が増加し、従事する人数が増え（図表 5-33）、なかでも女性（図表 5-9）や女性管理職（図表 5-11）、30 歳以下の若年者（図表 5-5）が増加していた。対照的に、「生産工程の職業」、「建設・採掘の職業」、「輸送・機械運転の職業」では仕事量（図表 5-37）、残業量（図表 5-39）ともに減少しており、「建設・採掘の職業」、「輸送・機械運転の職業」では収入が減少しているという回答も多かった（図表 5-35）。さらに、「建設・採掘の職業」と「農林漁業の職業」では収入（図表 5-35）、従事者数（図表 5-33）、30 歳以下の若年者（図表 5-5）が減少しているという割合が大きかった。また、「建設・採掘の職業」、「輸送・機械運転の職業」、「農林漁業の職業」、「生産工程の職業」で女性（図表 5-9）や女性管理職（図表 5-11）が継続的にいないと回答する割合が大きかった。

また、100 名以上の回答が得られた職業（職業細分類）について、「増加」と「やや増加」の割合を合計し、その値が大きい上位 5 職業を以下に示す（職業名順）。なお、設問数が多いため、「増加」と「やや増加」の合計が大きい上位 5 つの設問のみを対象とした。「17.自分の職業では最近（ここ 1、2 年）、仕事量が～」に関しては「高等学校教員」、「小学校教員」、「大学教員」、「中学校教員」、「特別支援学校教員」で割合が大きく、すべて教員であった。「18.自分の職業では最近（ここ 1、2 年）、残業が～」に関しても「高等学校教員」、「小学校教員」、「大学教員」、「中学校教員」、「特別支援学校教員」であり、まったく同じ結果であった。「3.自分と同じ職業では女性が～」は「医師」、「医薬情報担当者（MR）、医薬品卸販売担当者（MS）」、「歯科医師」、「写真家（営業写真家、商業カメラマン、報道カメラマンなど）」、「診療放射線技師」で割合が大きかった。「1.自分と同じ職業では 30 歳以下の人が～」は「医薬情報担当者（MR）、医薬品卸販売担当者（MS）」、「作業療法士」、「小学校教員」、「中学校教員」、「理学療法士」であった。「9.自分と同じ職業では非正規社員（パート、アルバイト）が～」は「スーパーマーケット店員」、「デパート店員」、「障害者福祉施設専門員（職業指導員、生活支援員など）」、「保育士」、「幼稚園教員」であった。

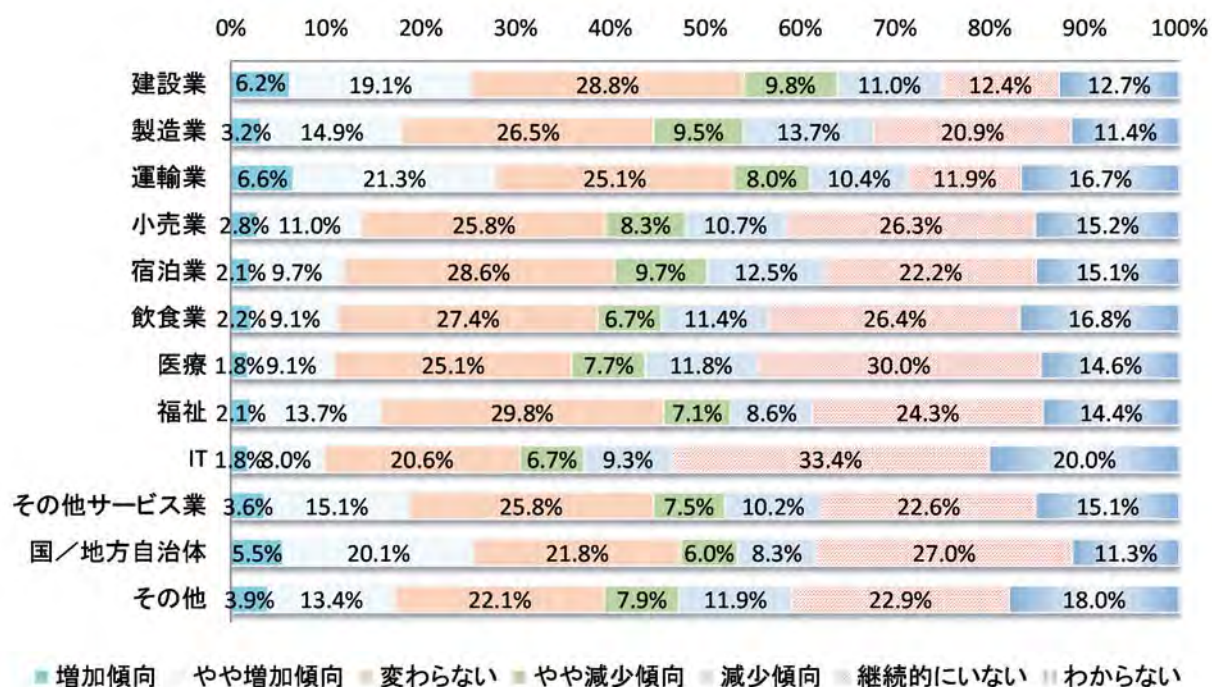
図表 5-4 「1. 自分と同じ職業では 30 歳以下の人が～」における回答の割合(業種別、n=26, 586)



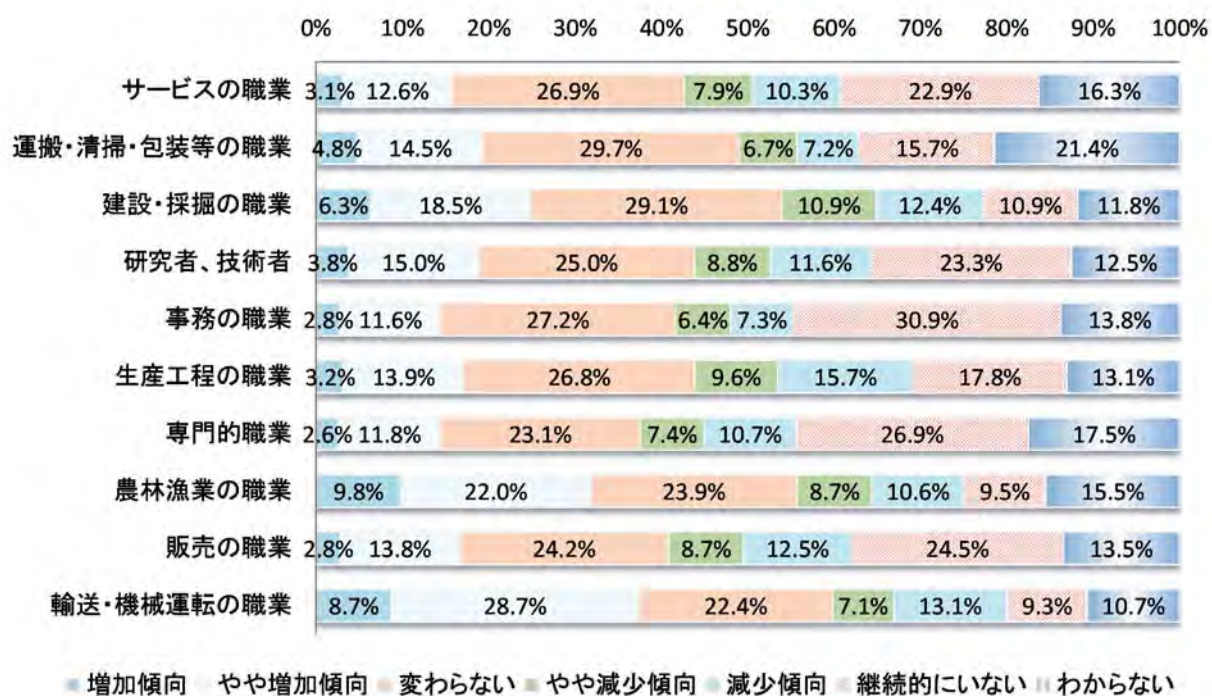
図表 5-5 「1. 自分と同じ職業では 30 歳以下の人が～」における回答の割合(職種別、n=26, 586)



図表 5-6 「2. 自分と同じ職業では 60 歳以上の人が～」における回答の割合(業種別、n=26, 586)

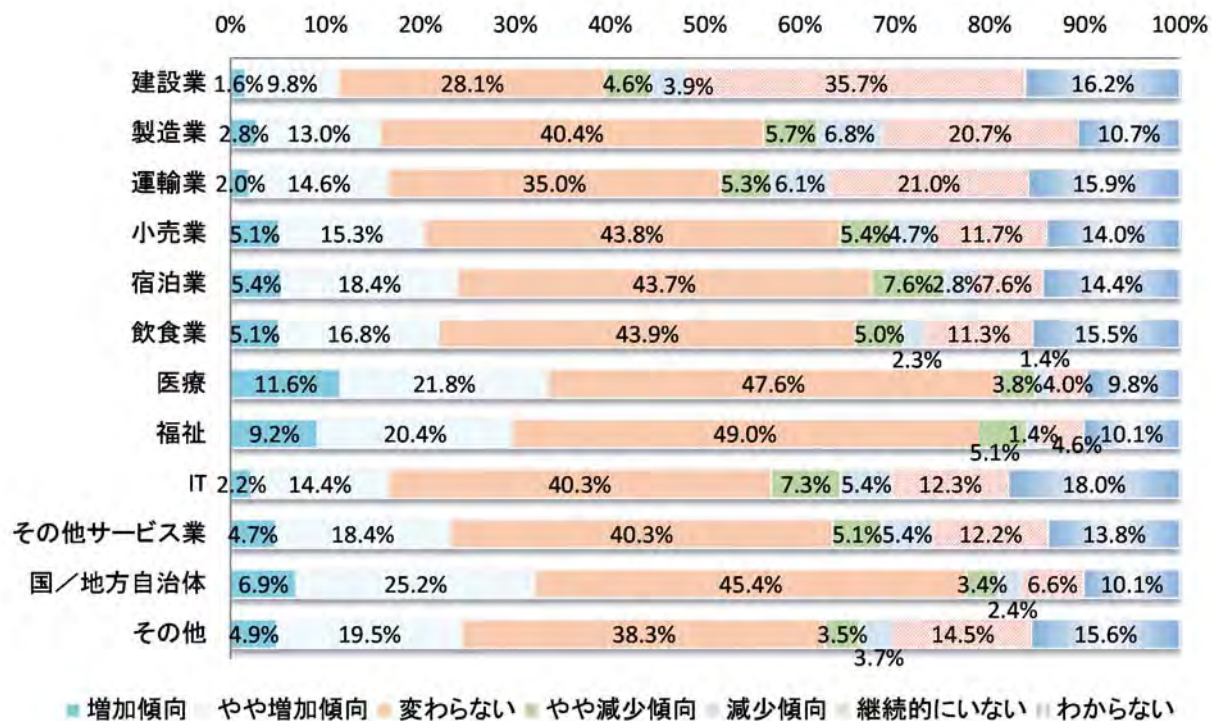


図表 5-7 「2. 自分と同じ職業では 60 歳以上の人が～」における回答の割合(職種別、n=26, 586)

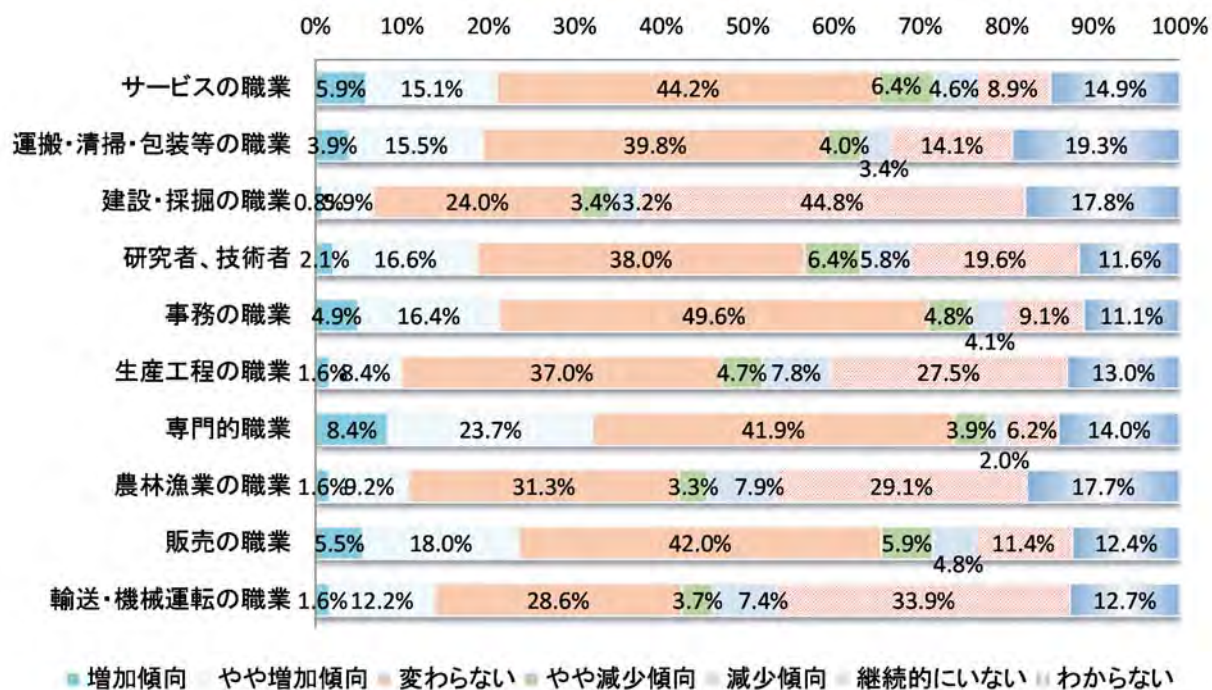




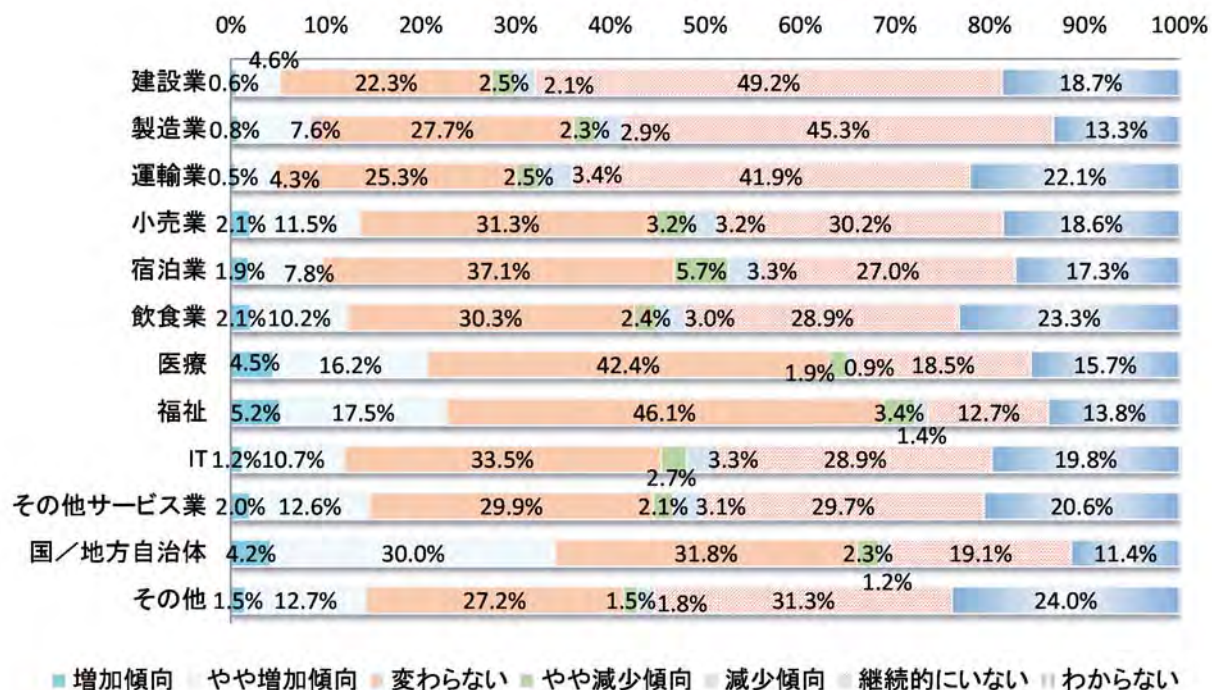
図表 5-8 「3. 自分と同じ職業では女性が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



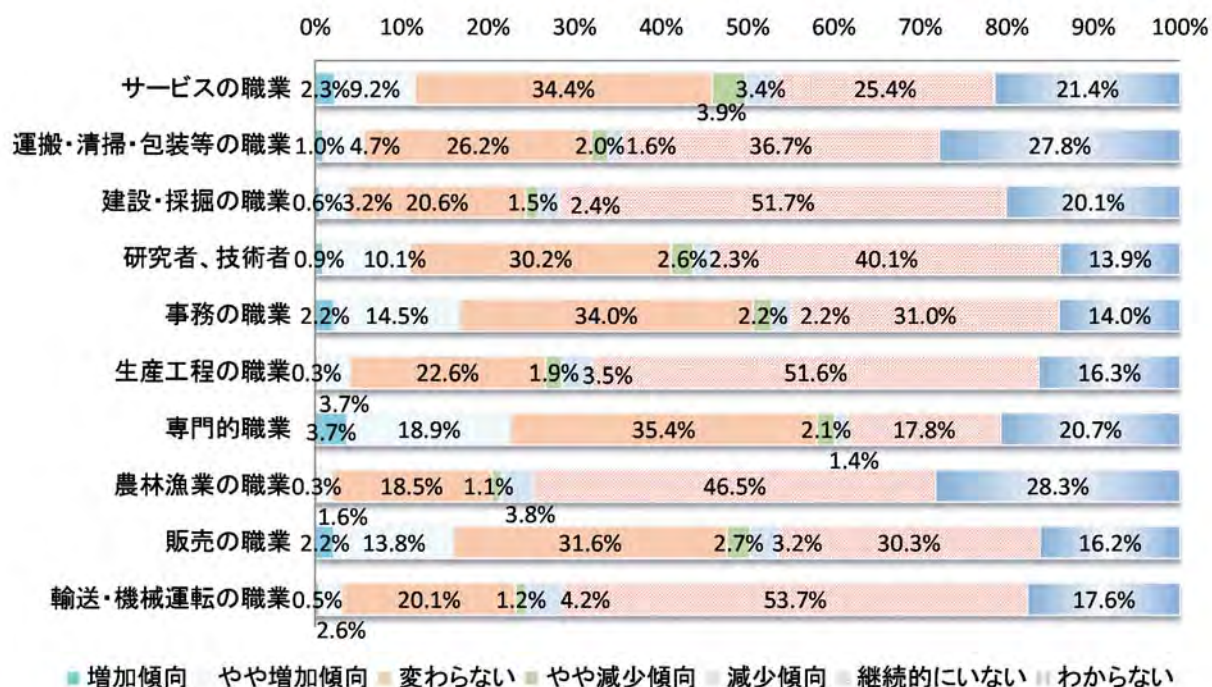
図表 5-9 「3. 自分と同じ職業では女性が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



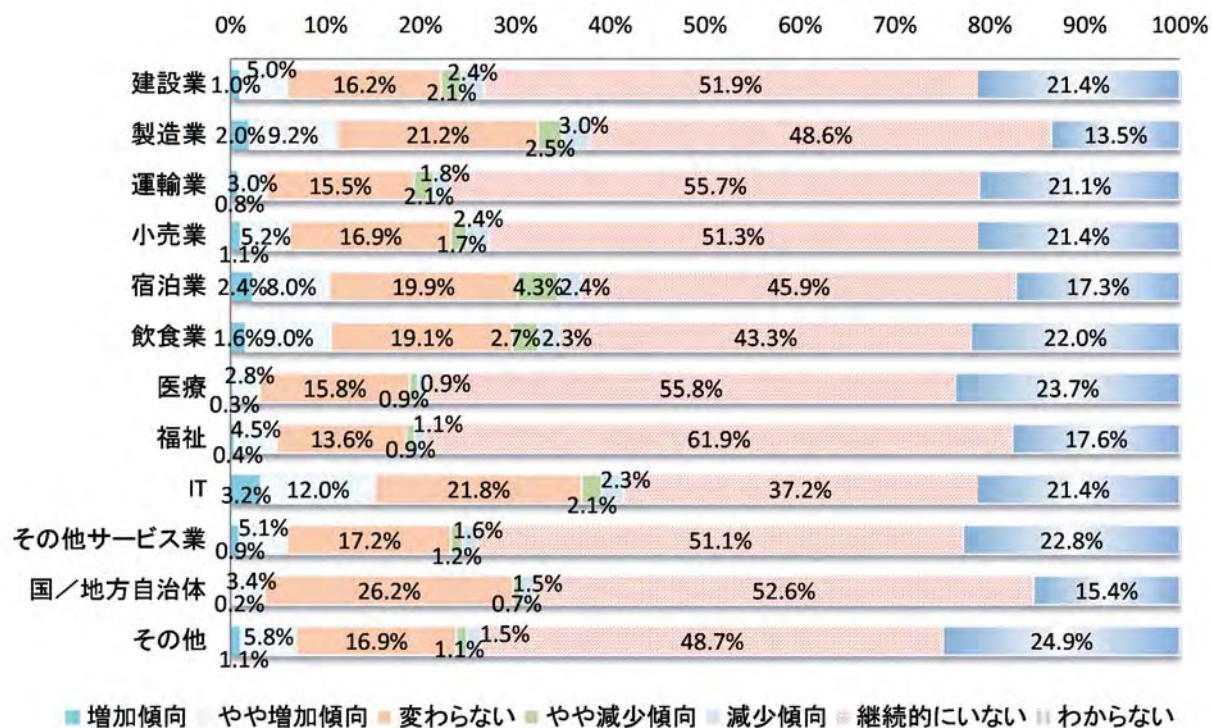
図表 5-10 「4. 自分と同じ職業では女性管理職が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



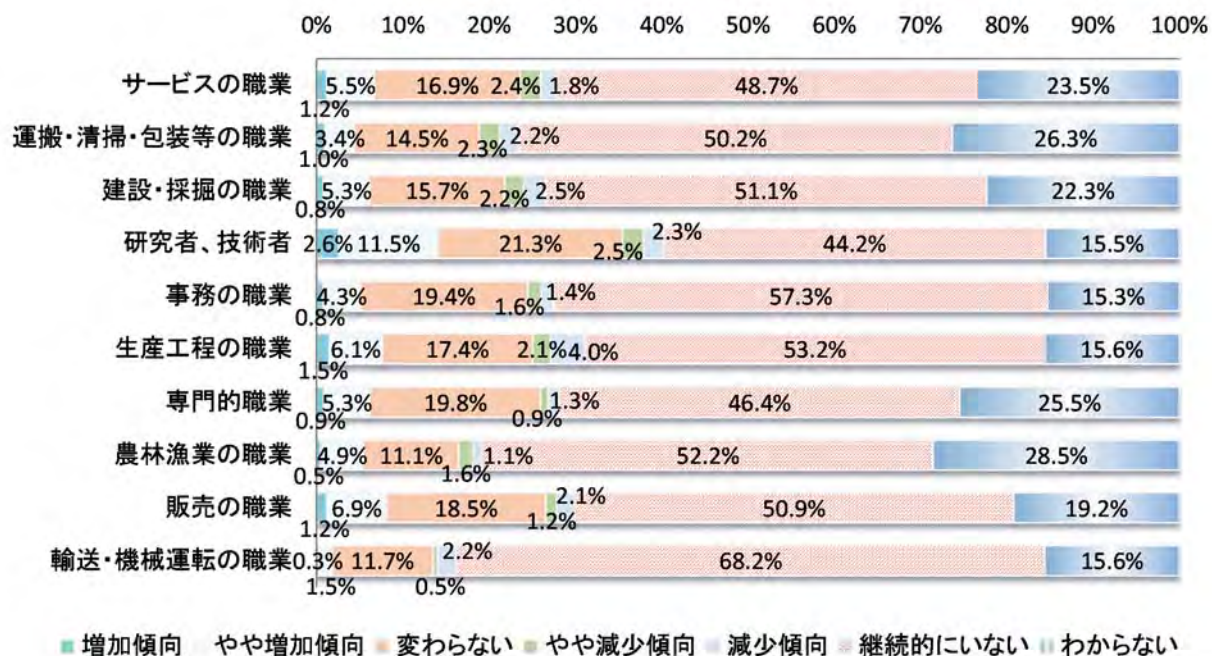
図表 5-11 「4. 自分と同じ職業では女性管理職が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



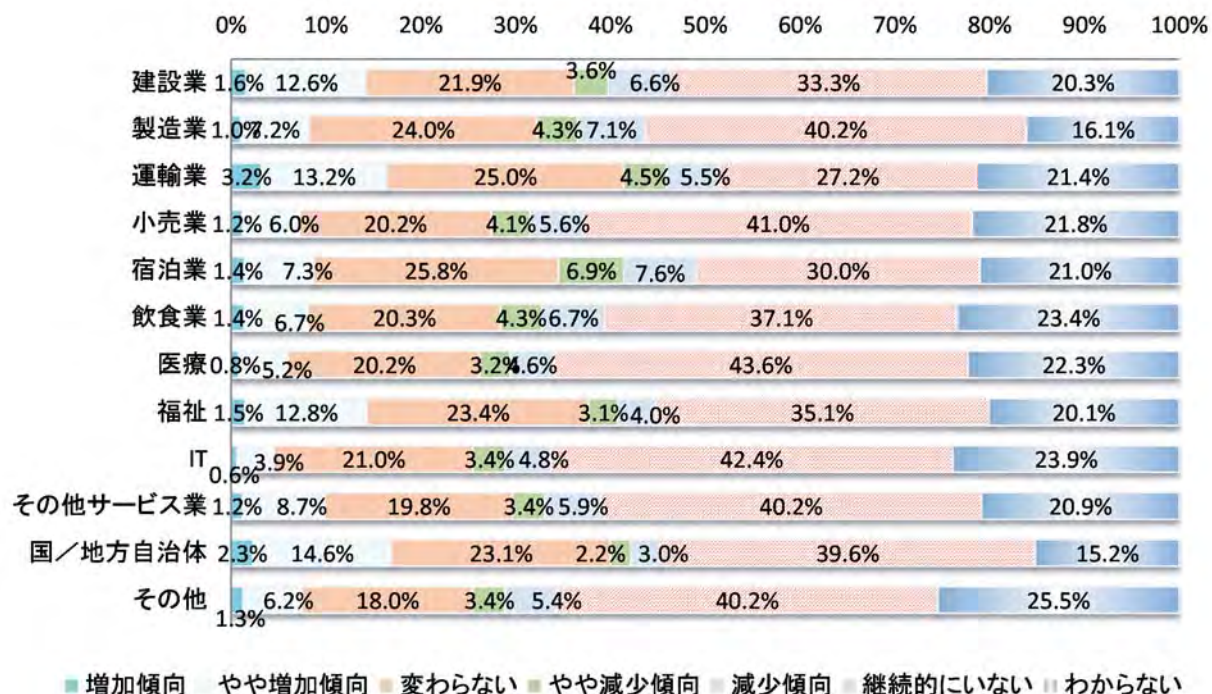
図表 5-12 「5. 自分と同じ職業では外国人が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



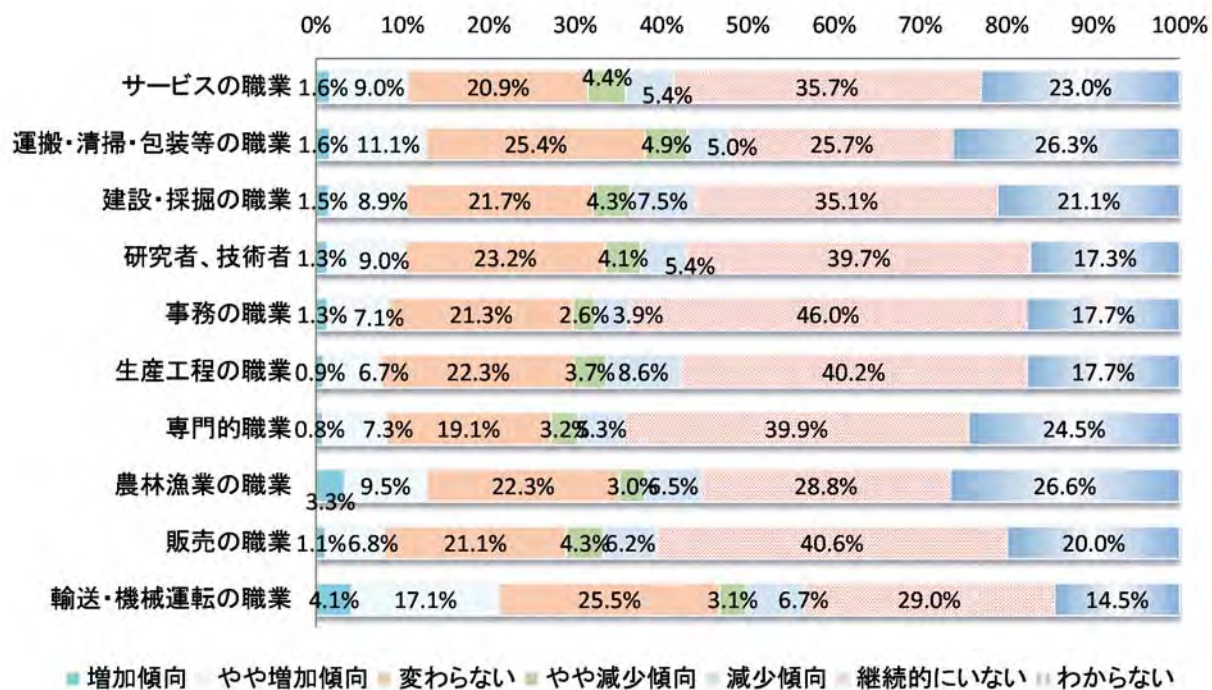
図表 5-13 「5. 自分と同じ職業では外国人が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



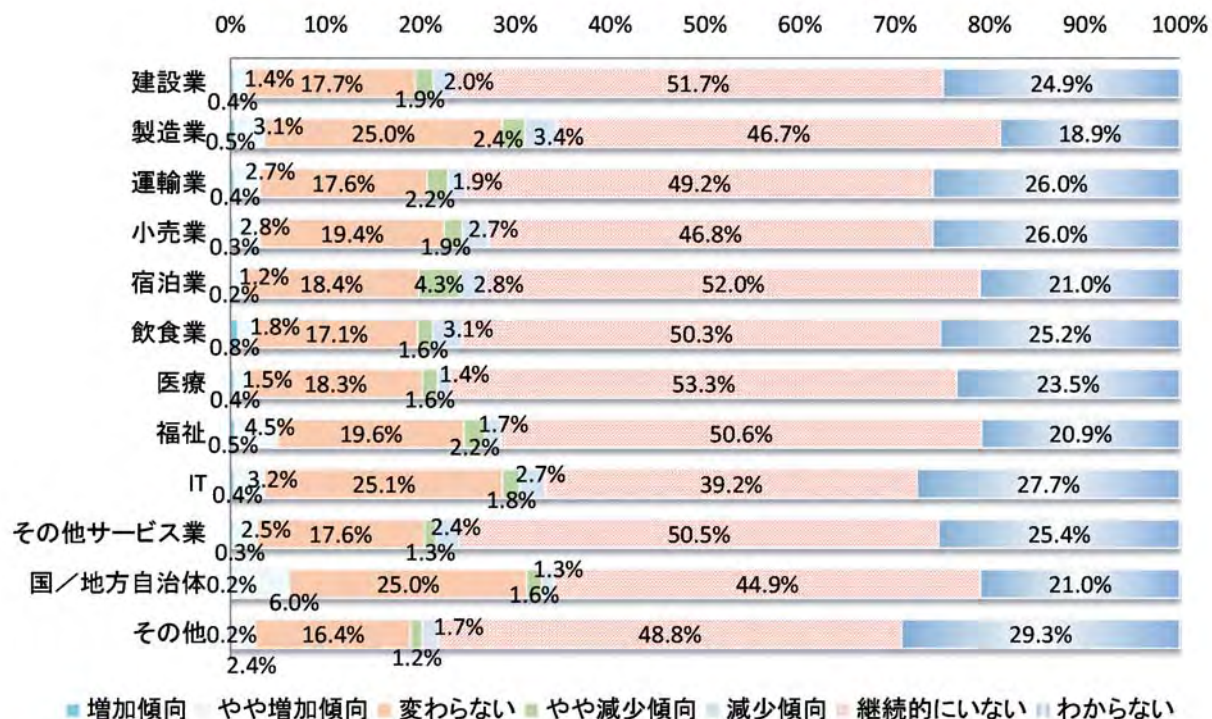
図表 5-14 「6. 自分と同じ職業では高齢者の採用が～」における回答の割合(業種別、n=26, 586)



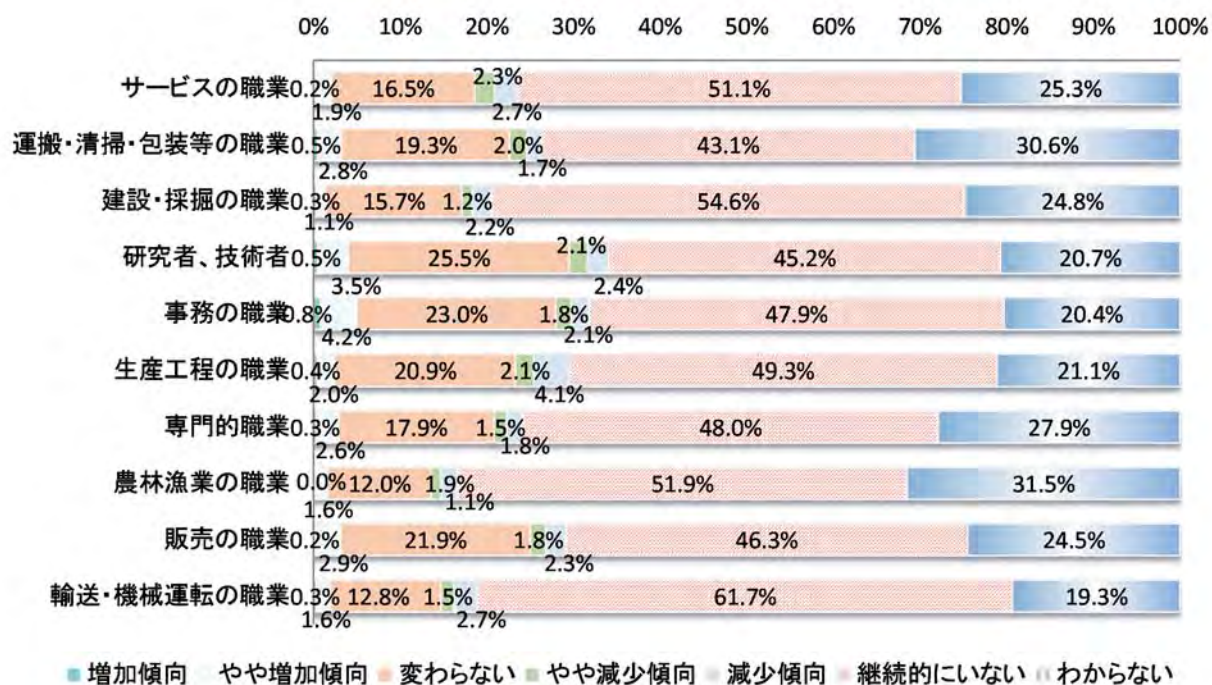
図表 5-15 「6. 自分と同じ職業では高齢者の採用が～」における回答の割合(職種別、n=26, 586)



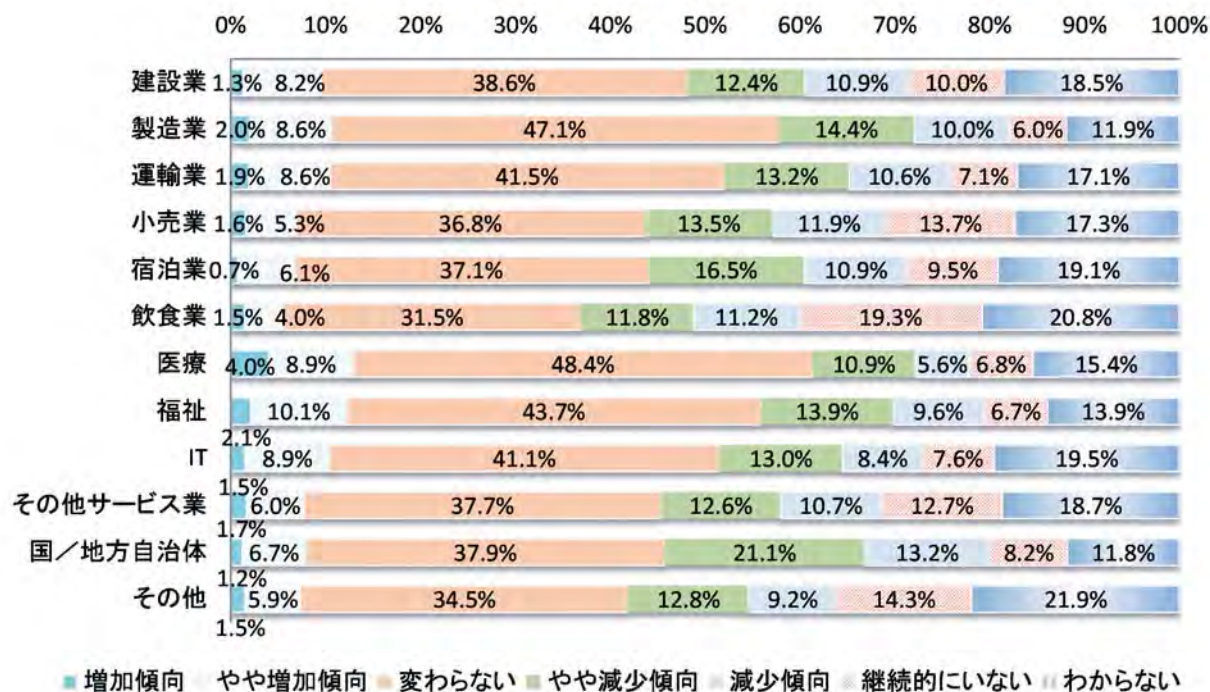
図表 5-16 「7. 自分と同じ職業では障害者の採用が～」における回答の割合(業種別、n=26, 586)



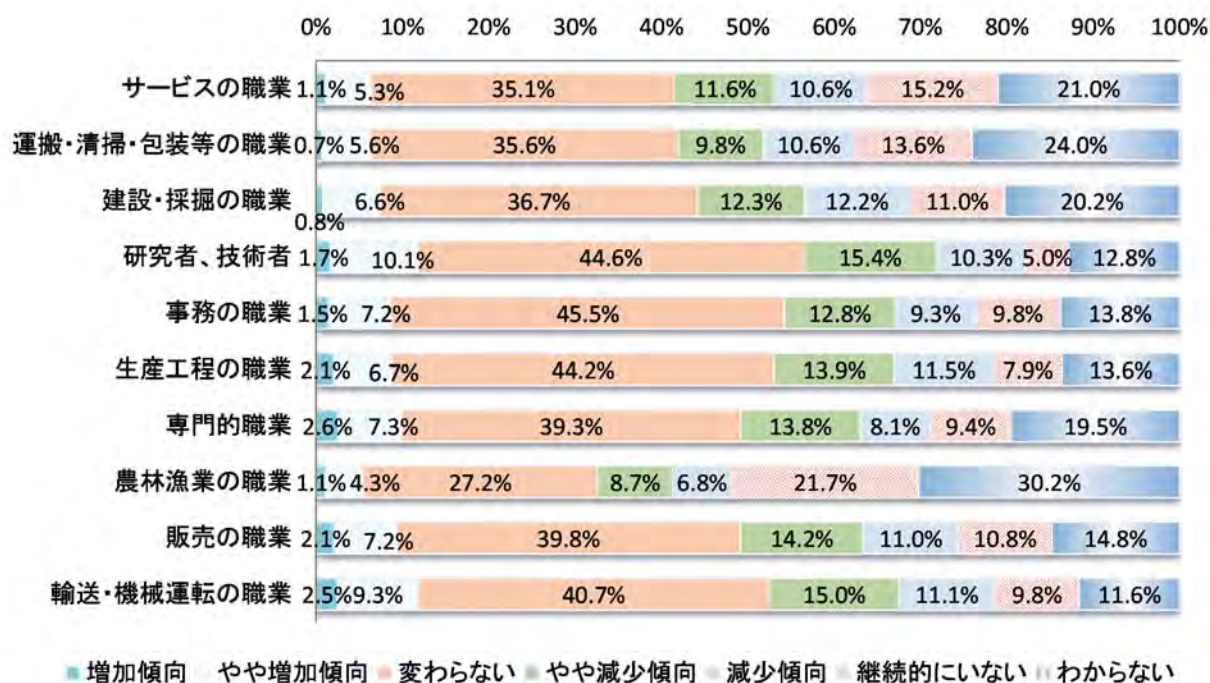
図表 5-17 「7. 自分と同じ職業では障害者の採用が～」における回答の割合(職種別、n=26, 586)



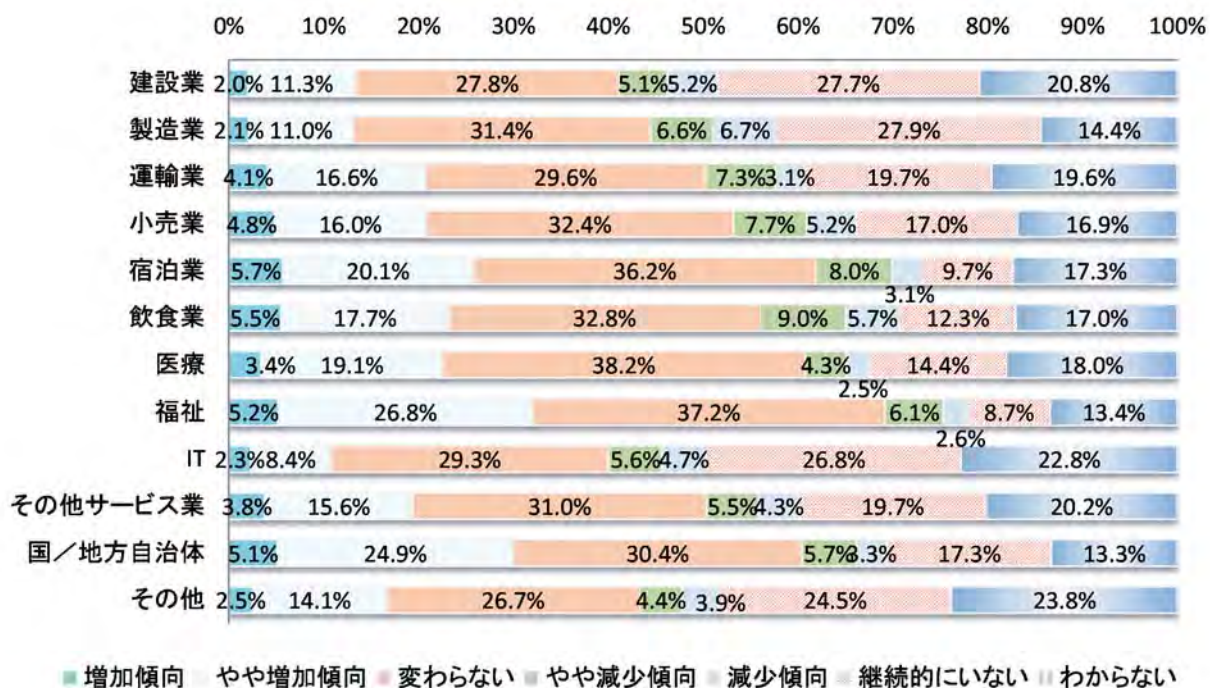
図表 5-18 「8. 自分と同じ職業では正社員が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



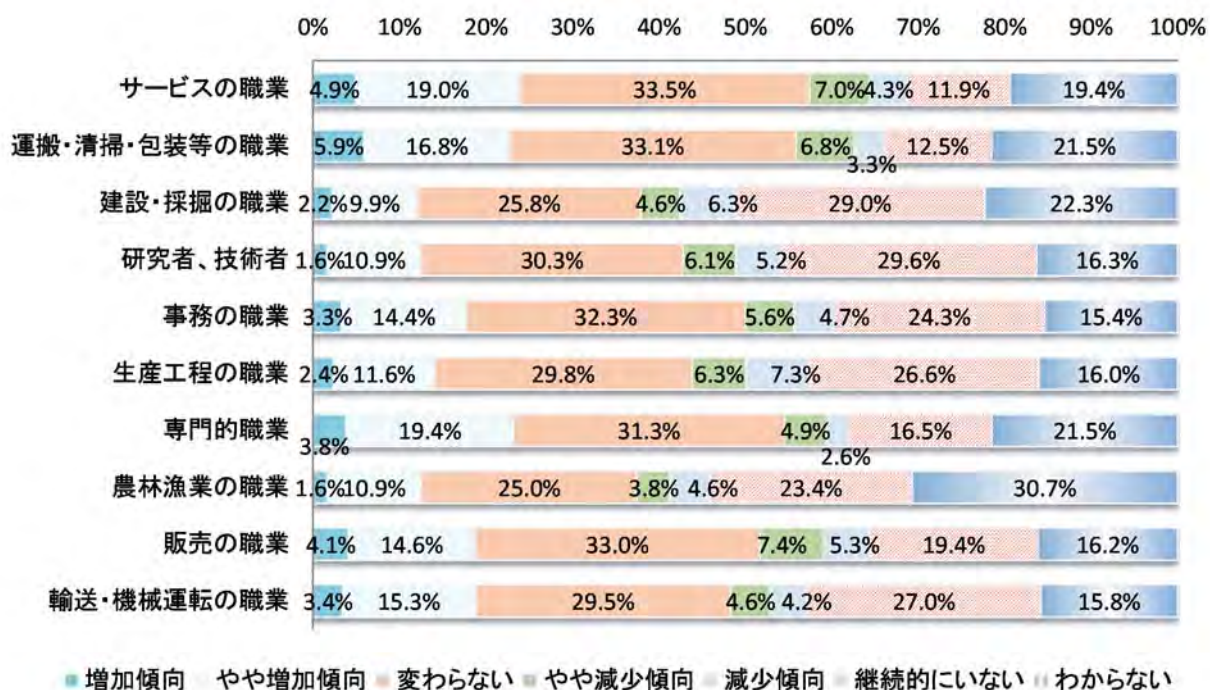
図表 5-19 「8. 自分と同じ職業では正社員が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



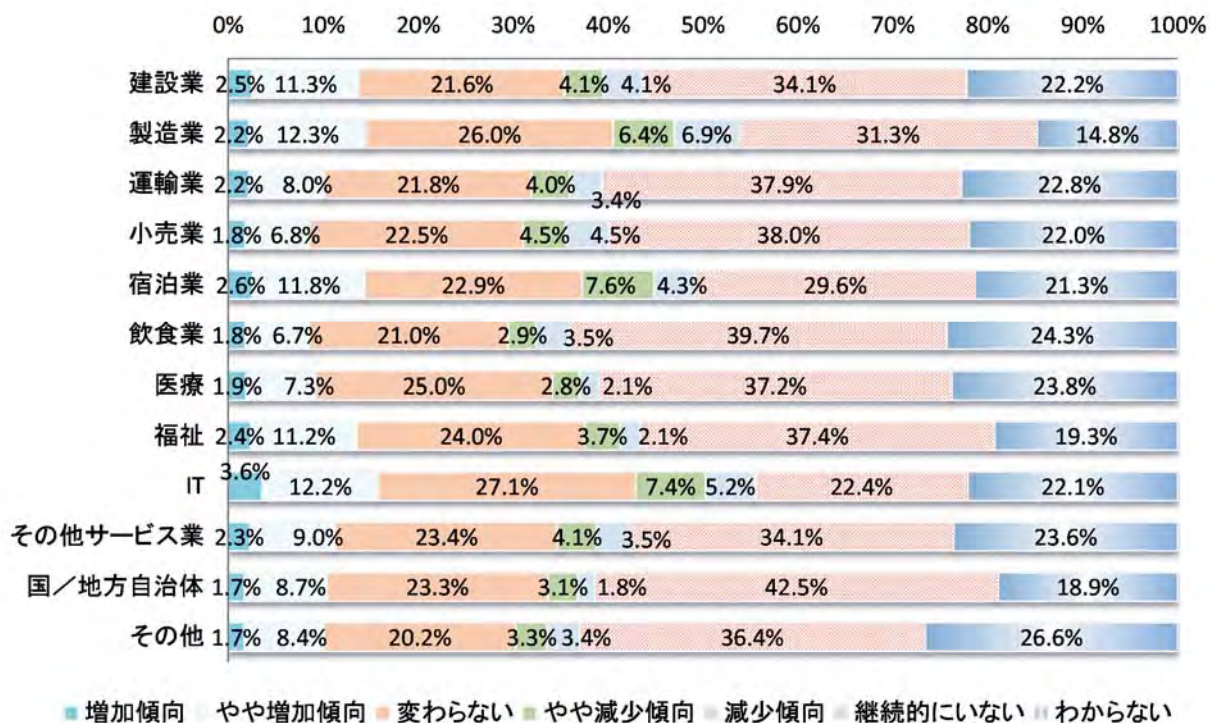
図表 5-20 「9. 自分と同じ職業では非正規社員（パート、アルバイト）が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



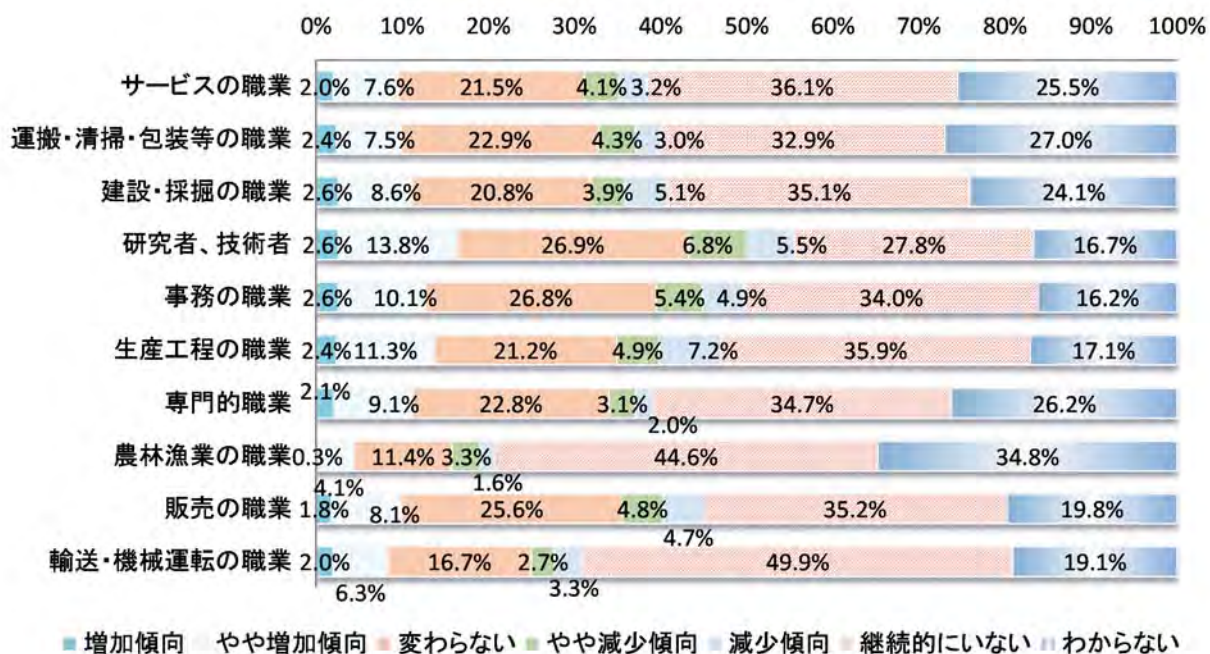
図表 5-21 「9. 自分と同じ職業では非正規社員（パート、アルバイト）が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



図表 5-22 「10. 自分と同じ職業では非正規社員（派遣）が～」における  
回答の割合（業種別、n=26,586）

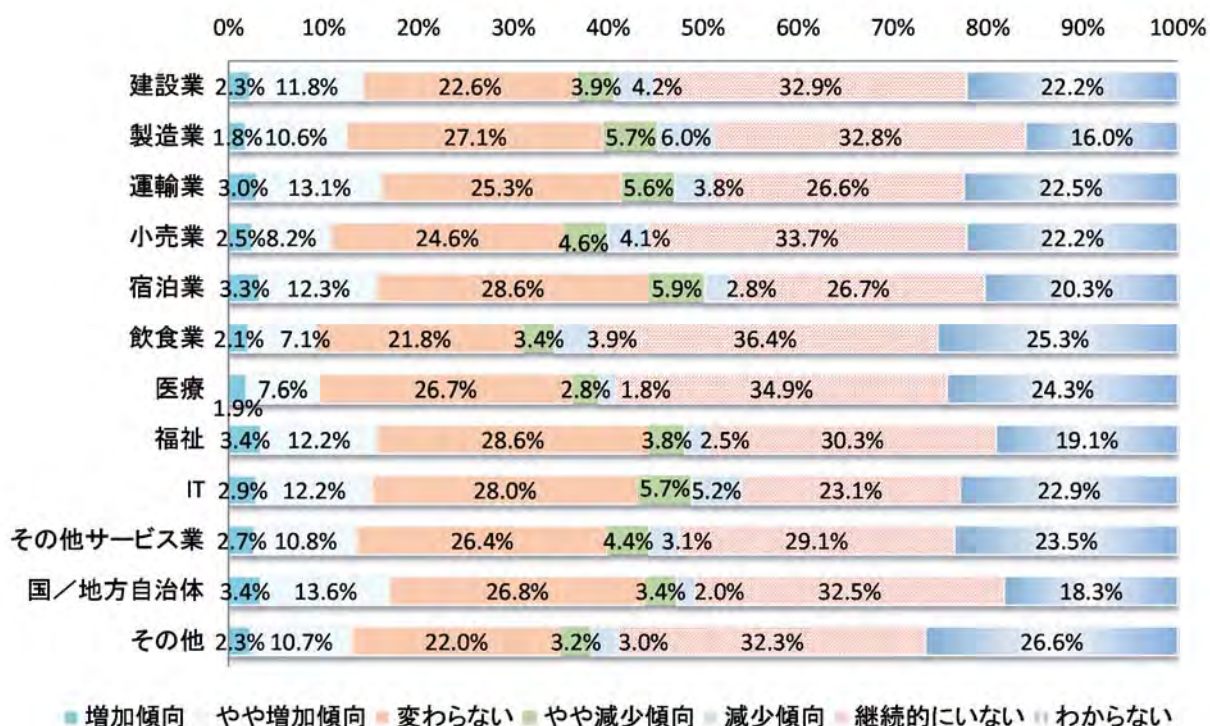


図表 5-23 「10. 自分と同じ職業では非正規社員（派遣）が～」における  
回答の割合（職種別、n=26,586）

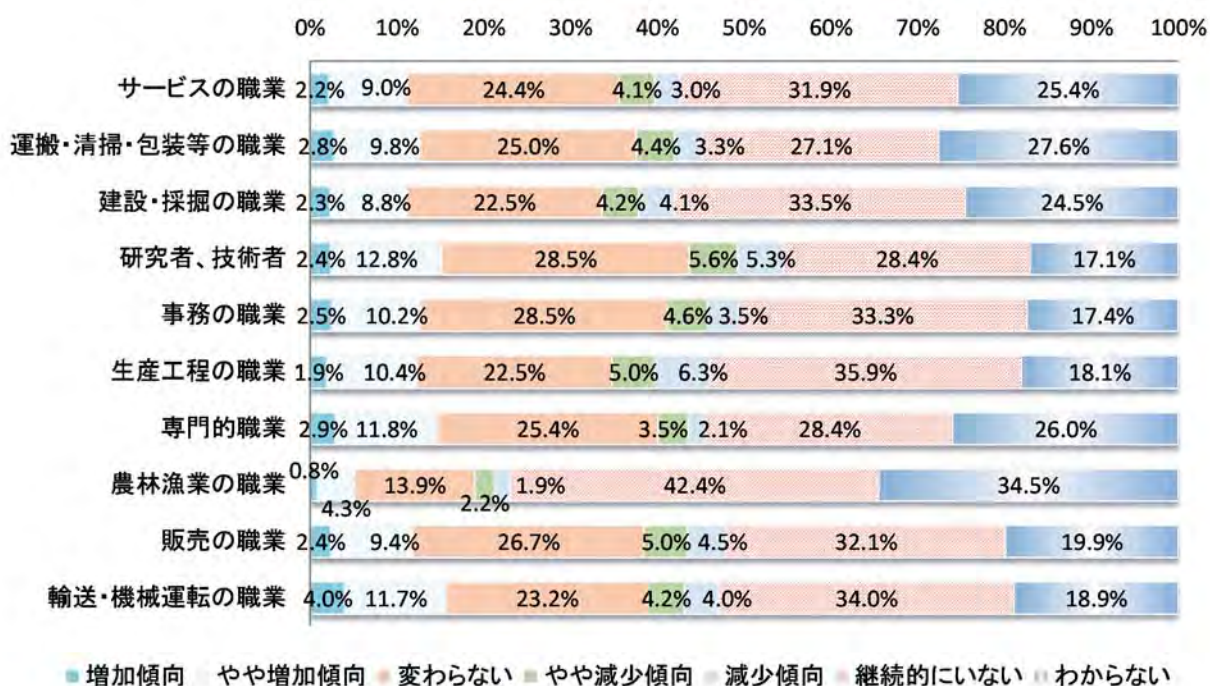




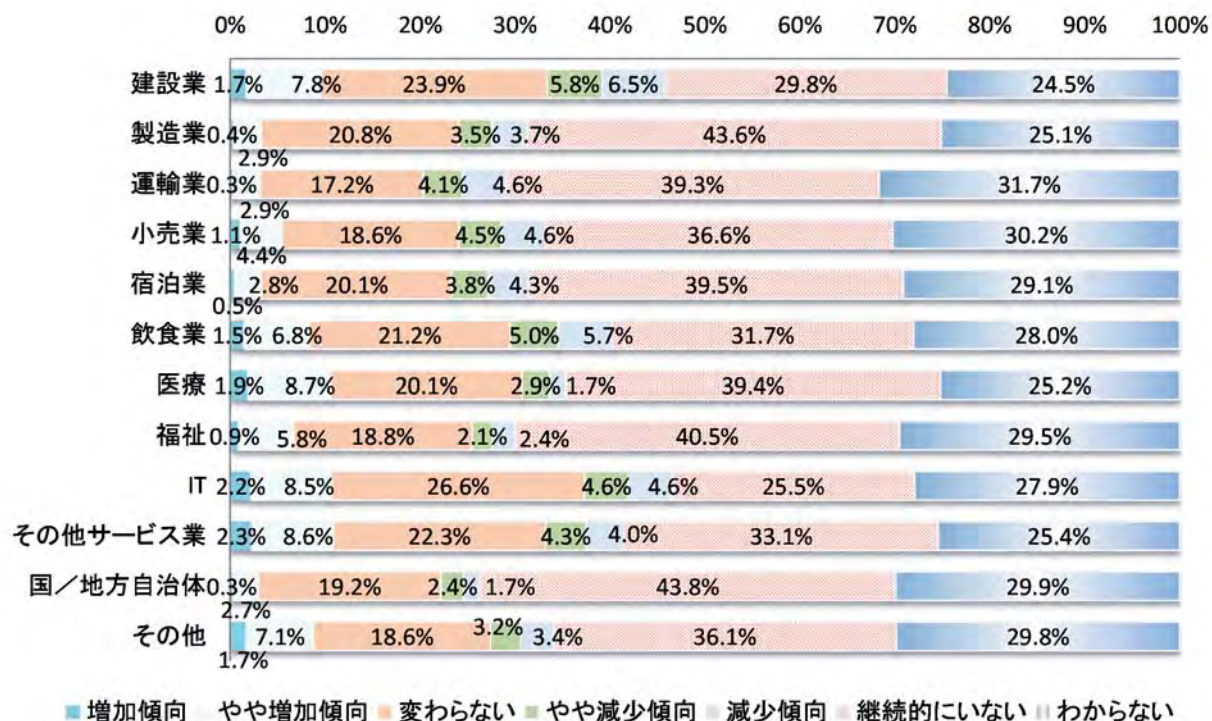
図表 5-24 「11. 自分と同じ職業では非正規社員（契約）が～」における  
回答の割合（業種別、n=26,586）



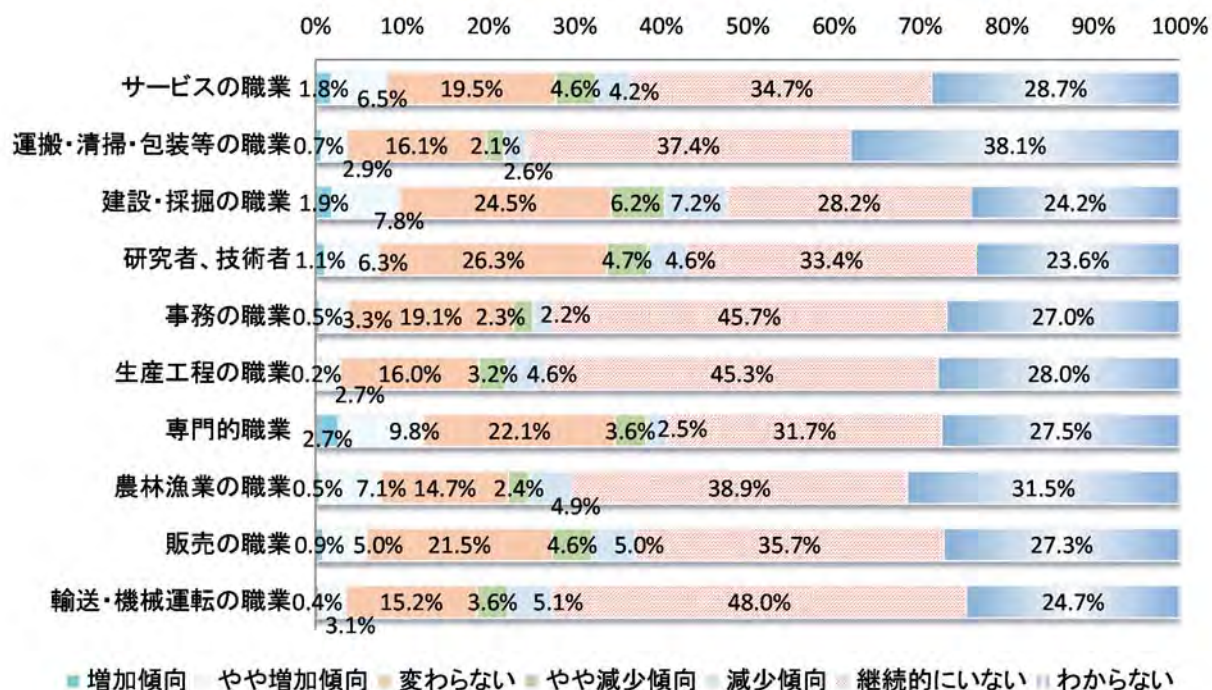
図表 5-25 「11. 自分と同じ職業では非正規社員（契約）が～」における  
回答の割合（職種別、n=26,586）



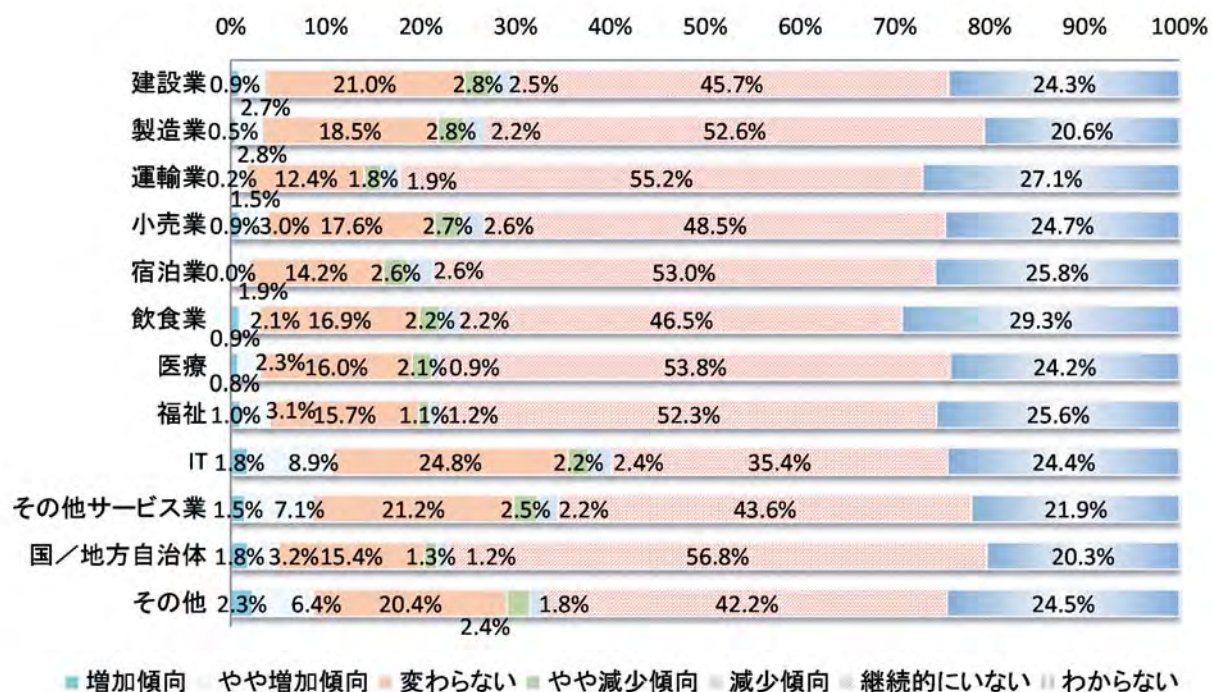
図表 5-26 「12. 自分の職業では独立・開業する人やフリーランスになる人が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



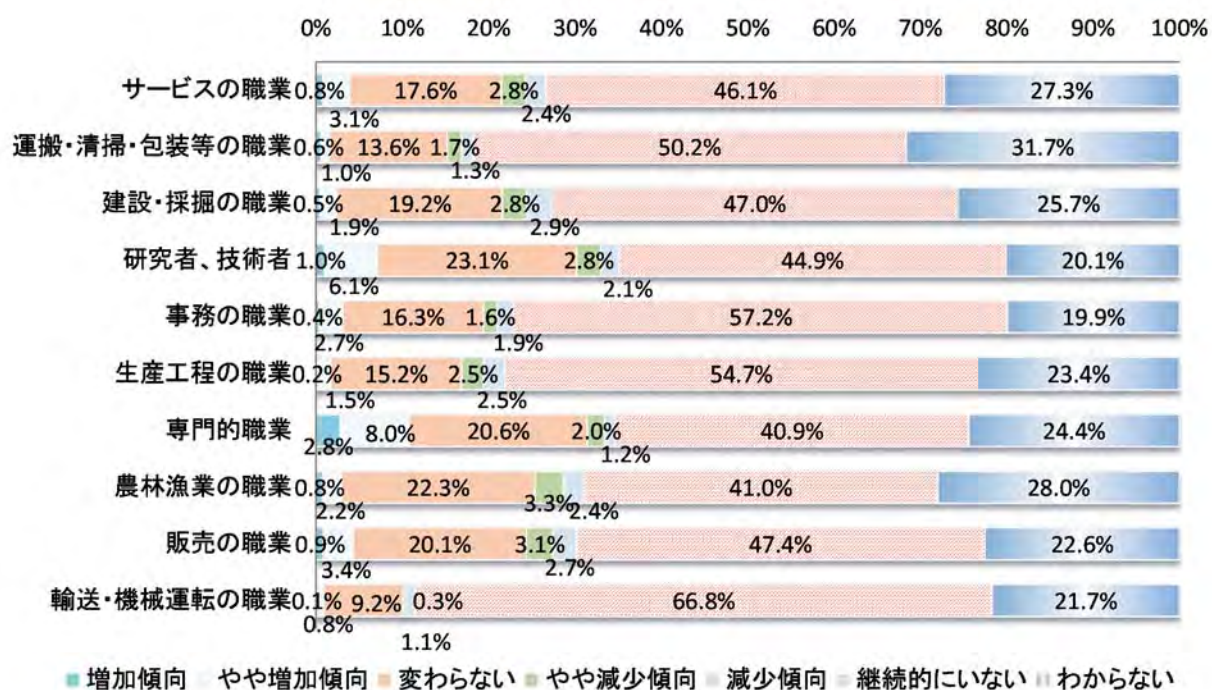
図表 5-27 「12. 自分の職業では独立・開業する人やフリーランスになる人が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



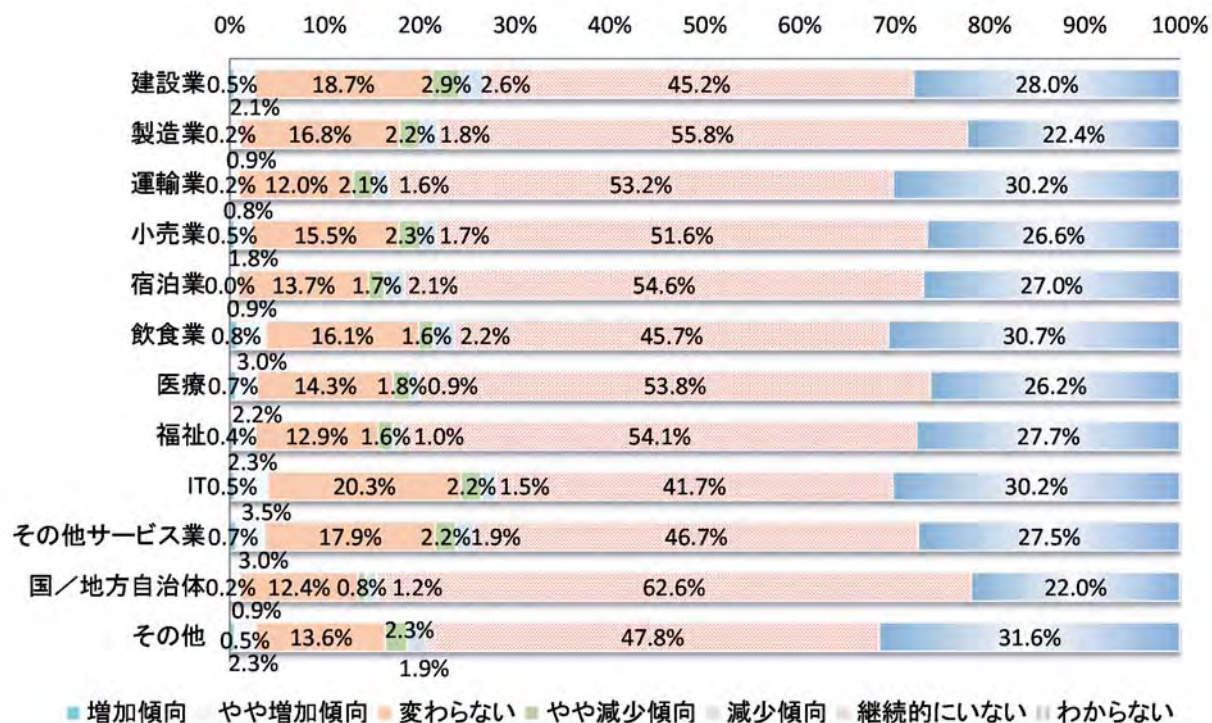
図表 5-28 「13. 自分の職業では自宅で仕事をする人が～」における  
回答の割合（業種別、n=26,586）



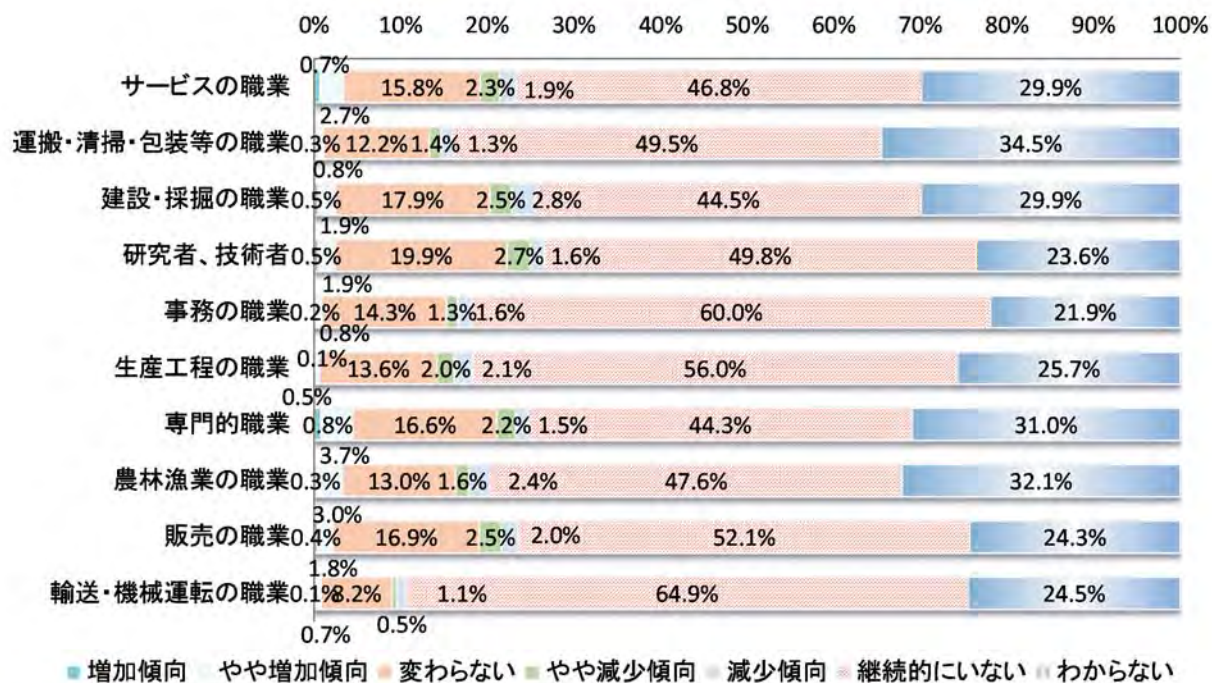
図表 5-29 「13. 自分の職業では自宅で仕事をする人が～」における  
回答の割合（職種別、n=26,586）



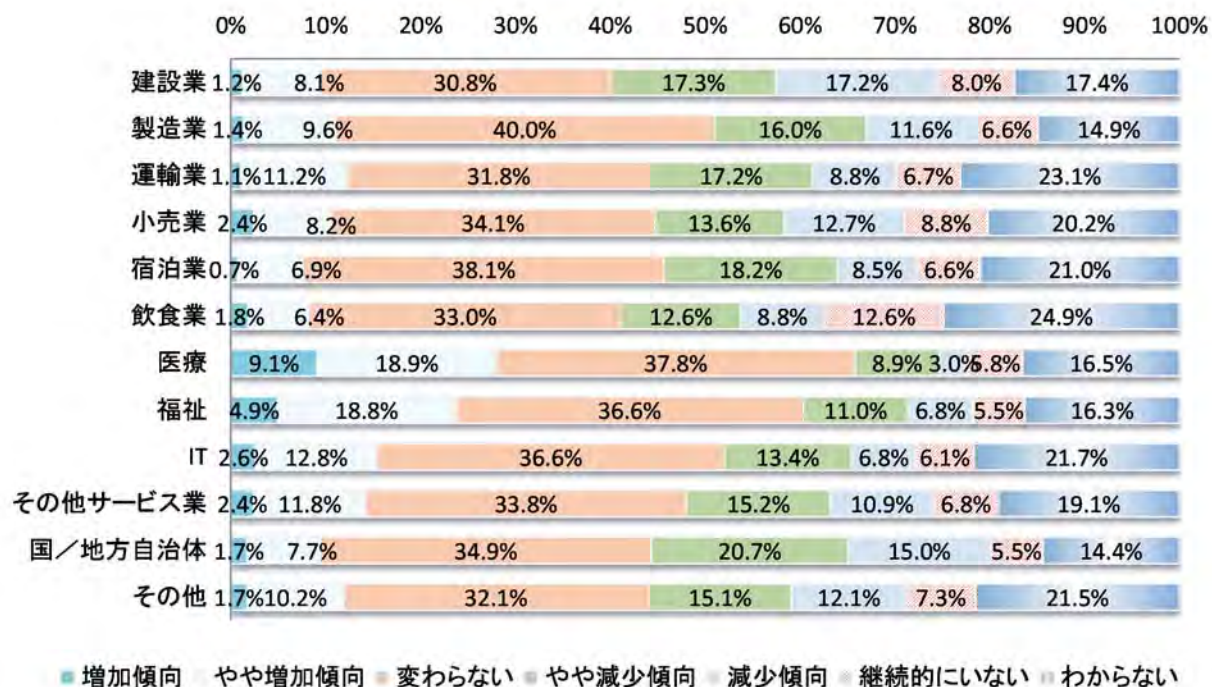
図表 5-30 「14. 自分の職業では自宅以外の場所をレンタルして仕事をする人が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



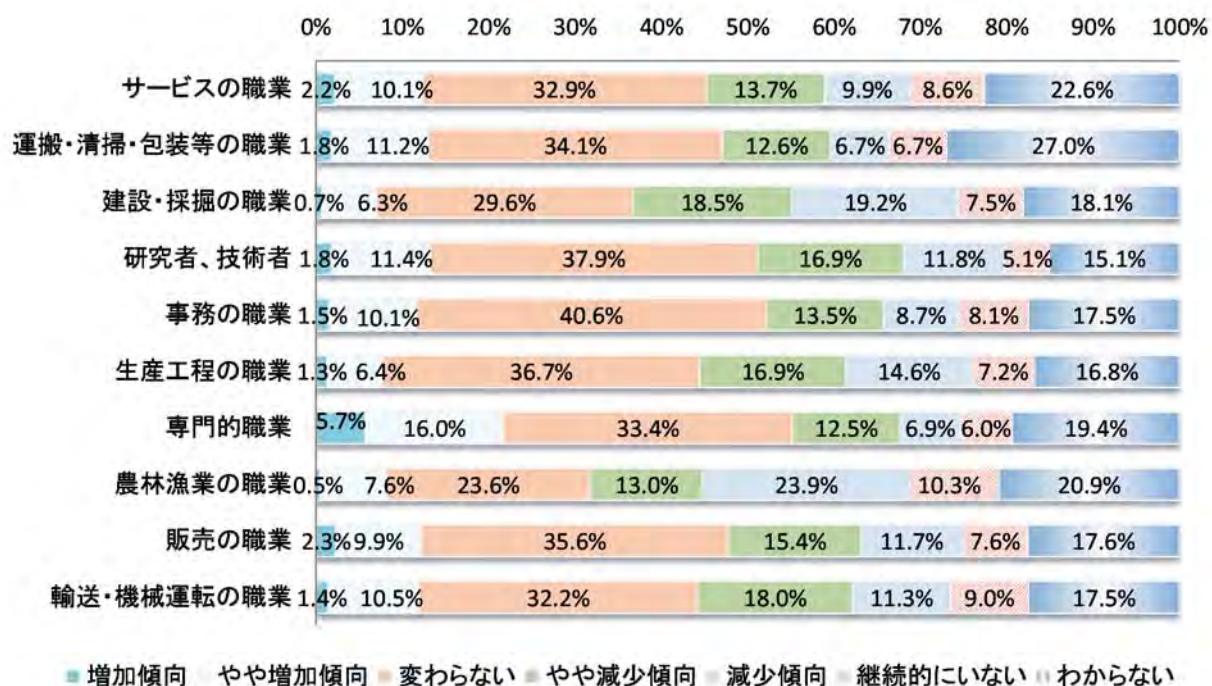
図表 5-31 「14. 自分の職業では自宅以外の場所をレンタルして仕事をする人が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



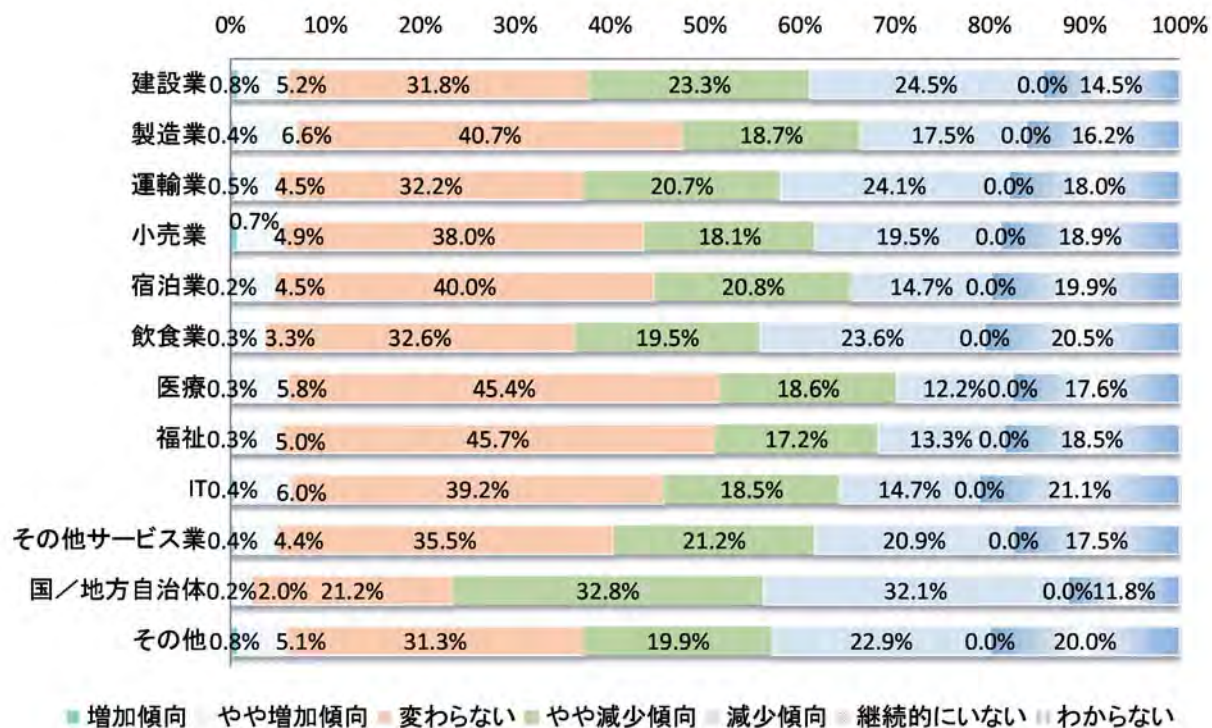
図表 5-32 「15. 自分と同じ職業の人の人数は全体として～」における  
回答の割合（業種別、n=26,586）



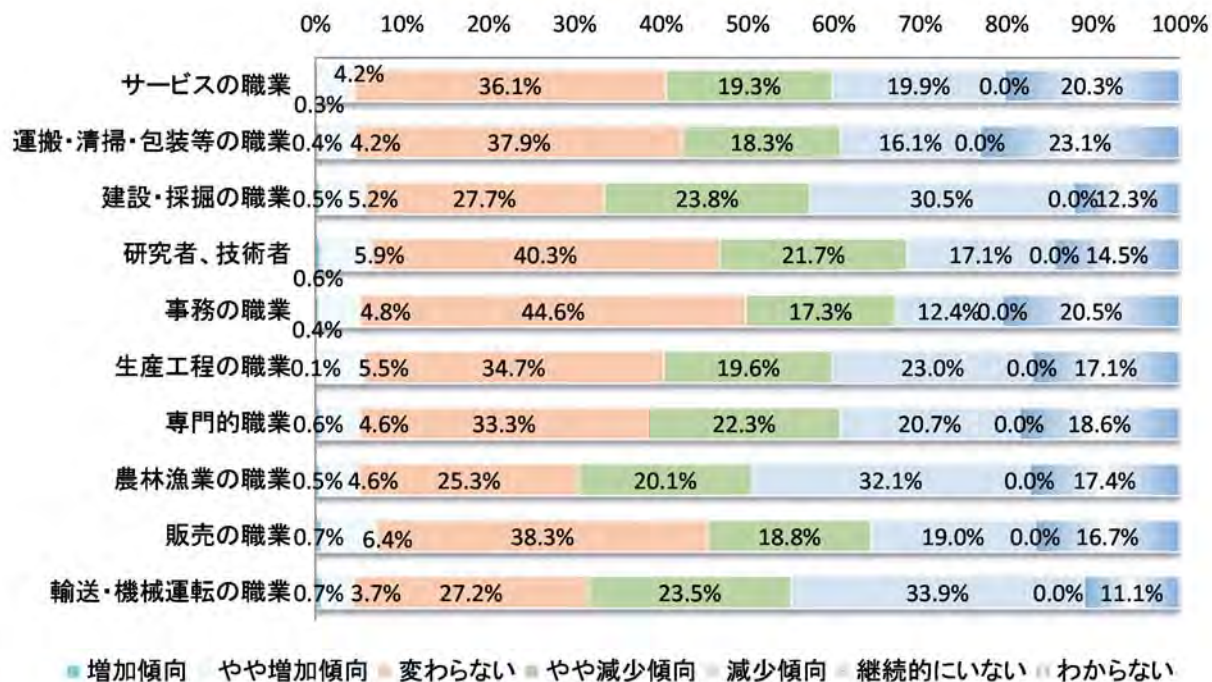
図表 5-33 「15. 自分と同じ職業の人の人数は全体として～」における  
回答の割合（職種別、n=26,586）



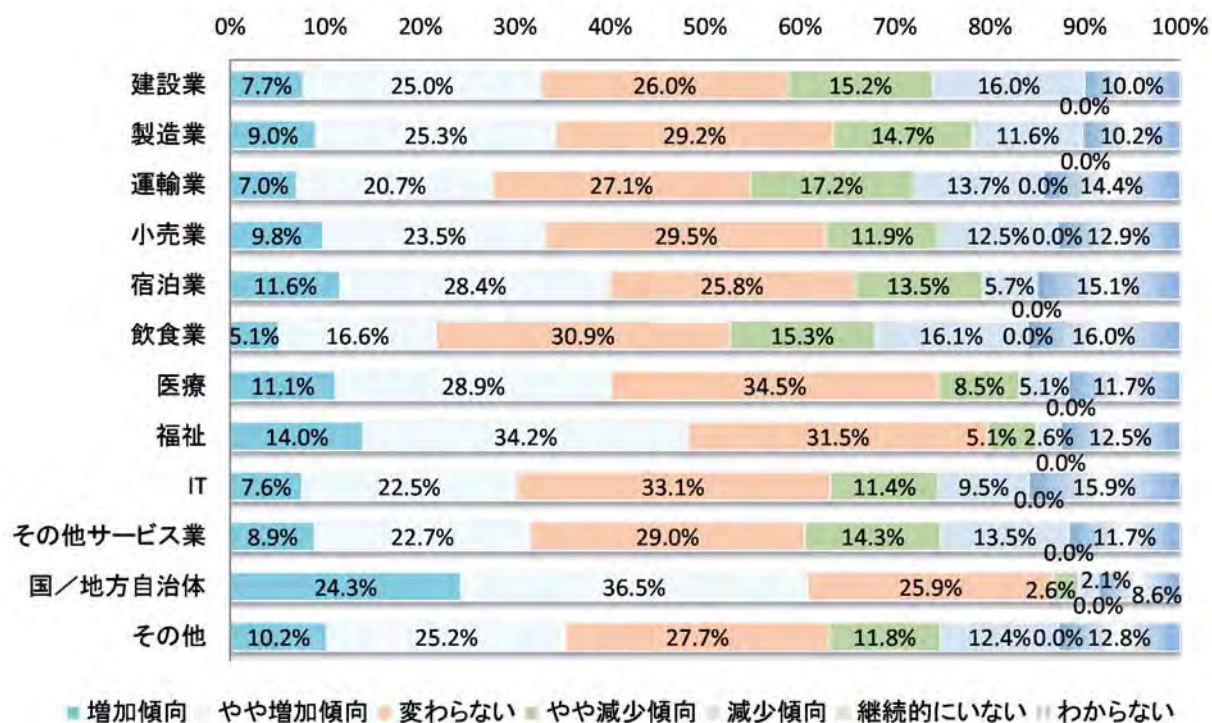
図表 5-34 「16. 自分と同じ職業では収入が全体的に～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



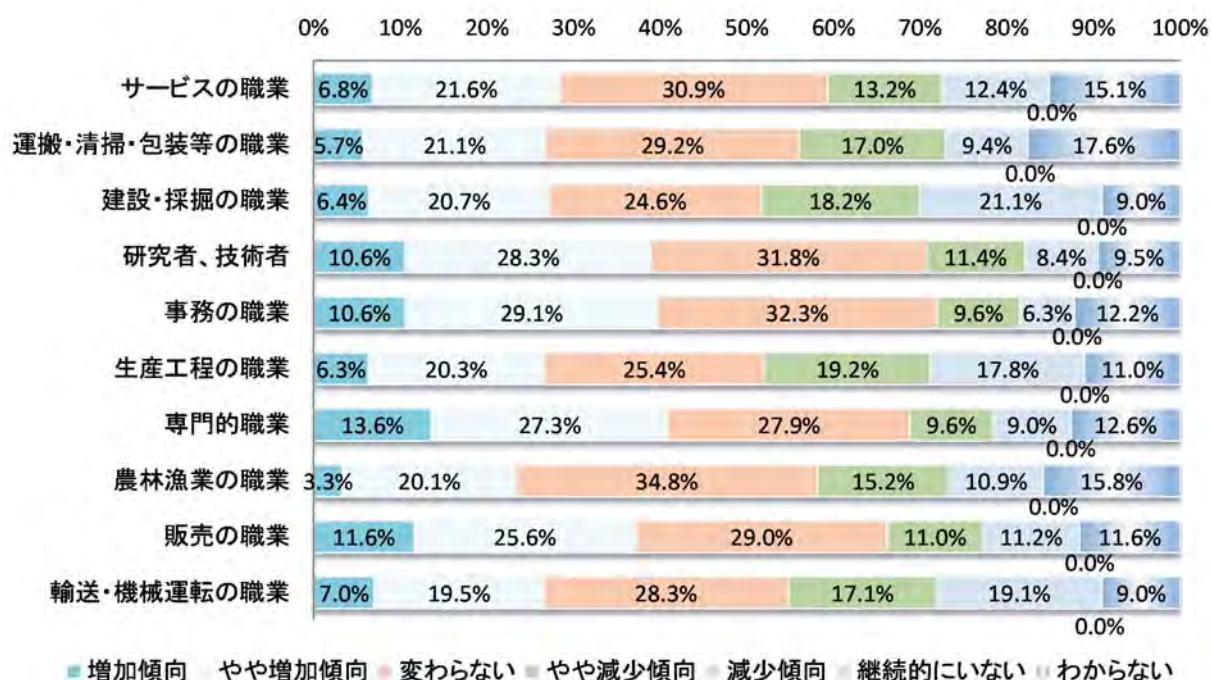
図表 5-35 「16. 自分と同じ職業では収入が全体的に～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



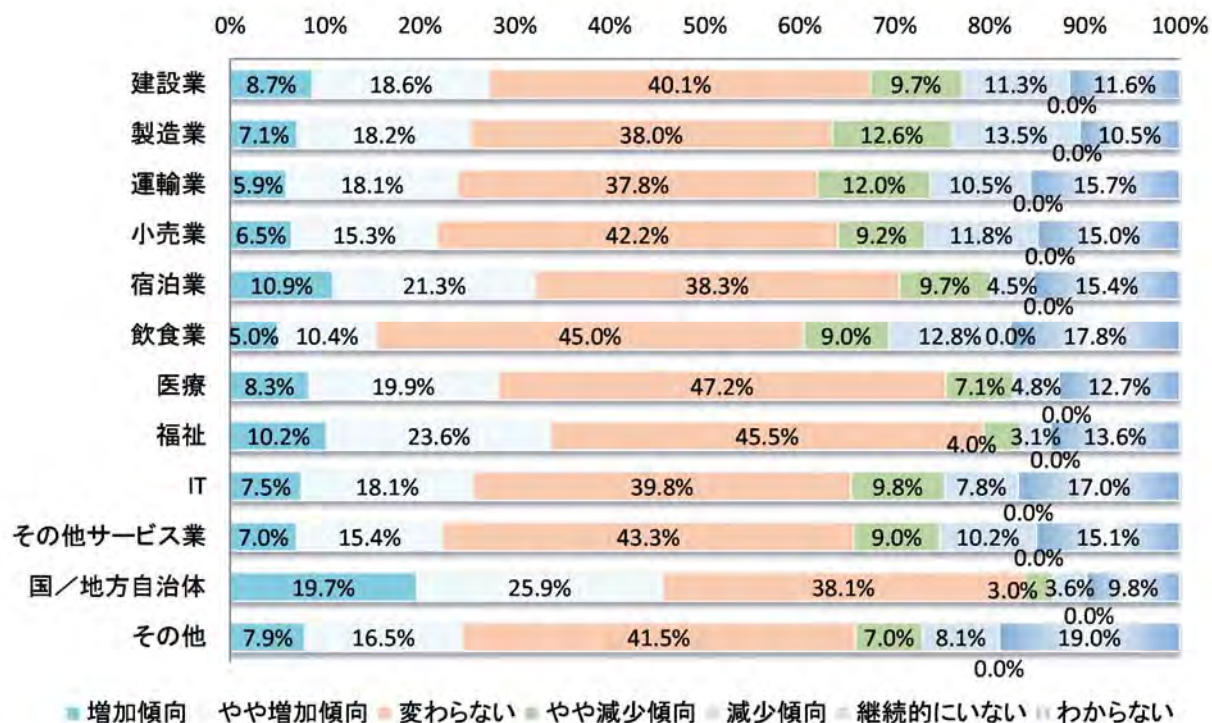
図表 5-36 「17. 自分の職業では最近（ここ1、2年）、仕事量が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



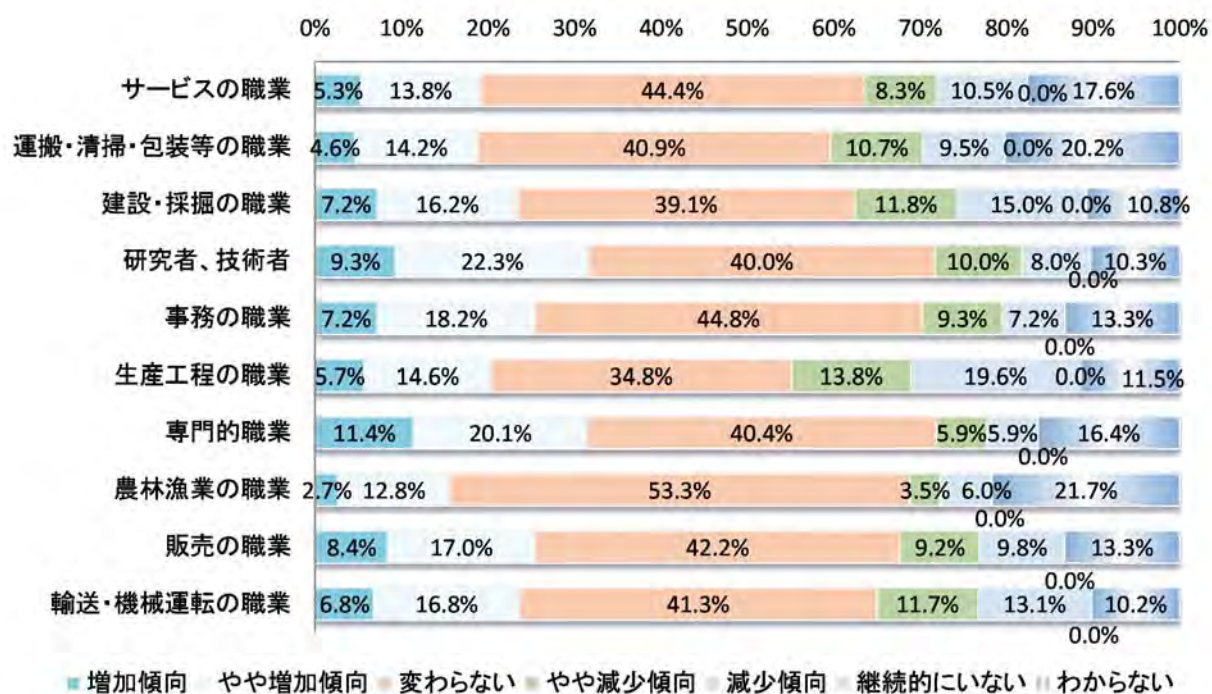
図表 5-37 「17. 自分の職業では最近（ここ1、2年）、仕事量が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）



図表 5-38 「18. 自分の職業では最近（ここ1、2年）、残業が～」における回答の割合（業種別、n=26,586）



図表 5-39 「18. 自分の職業では最近（ここ1、2年）、残業が～」における回答の割合（職種別、n=26,586）





#### 4. 職業の内容面の変化

現職の変化を尋ねる 28 項目について平均値と標準偏差を求めた。集計に際して回答を 5 段階 (1. No—5. Yes) で得点化し、肯定的なほど得点が高くなるようにした。「わからない」には「どちらともいえない」同様 3 点を与えた。結果を図表 5-40 に示す。最も高い平均値と最も低い平均値に着色 (白黒印刷では灰色) している。

全体の平均値を見ると、最も平均値が高いのは「2.自分の職業では、様々なことをしなくてはならない等仕事の範囲が広がっている」であり、次いで「7.自分の職業では、仕事をするために、新しいことを学ぶ必要が増えている」と「6.自分の職業では、より高い専門性や高度なスキルが求められるようになっている」が高くなっている。職業の一般的傾向として、従来よりも様々なことを仕事で求められるようになり、対応するために新しいことを学んだり、より高度な技能を身につけたりする必要に迫られるようになってきているといえる。対して、平均値が最も低いのは「18.自分の職業では、英語、中国語以外の外国語が必要になっている」であり、次いで「17.自分の職業では、中国語が必要なことが多くなっている」、「16.自分の職業では、よりレベルの高い英語力が必要になっている」、「15.自分の職業では、仕事で英語を使うことが多くなっている」が低かった。職業全体で見ると、英語を含めた外国語の必要性が高まっているとはいえない。

図表 5-40 現職の変化に関する 28 項目における全体の平均値と標準偏差 (n=26,586)

| 設問   | 平均値  | 標準偏差 |
|--|------|------|
| 1 自分の職業では仕事のテンポ・サイクルが速くなっている                 | 3.42 | 0.91 |
| 2 自分の職業では、様々なことをしなくてはならない等仕事の範囲が広がっている       | 3.74 | 0.94 |
| 3 自分の職業では、仕事が特定の分野に特化、専門化してきている              | 3.29 | 0.97 |
| 4 自分の職業では以前よりもマニュアル化、定式化が進んでいる               | 3.12 | 0.99 |
| 5 自分の職業では以前よりも各人の創意工夫が求められるようになっている          | 3.44 | 0.96 |
| 6 自分の職業では、より高い専門性や高度なスキルが求められるようになっている       | 3.61 | 0.99 |
| 7 自分の職業では、仕事をするために、新しいことを学ぶ必要が増えている          | 3.64 | 0.98 |
| 8 自分の職業では、仕事の変化が早くなりついて行くのが難しくなっている          | 3.18 | 0.98 |
| 9 自分の職業ではIT化、機械化等により、より心身の負担が軽減している          | 2.62 | 1.00 |
| 10 自分の職業では作業の自動化により、必要人員が減少している              | 2.55 | 1.06 |
| 11 自分の職業では経験から得られるカン・コツやノウハウが以前より重要になっている    | 3.42 | 0.92 |
| 12 自分の職業では後継者不足や技能・ノウハウの伝承が問題になっている          | 3.25 | 1.04 |
| 13 自分の職業では、IT (PC、情報機器、ネット) の利用活用が重要になっている   | 3.35 | 1.13 |
| 14 自分の職業では、ソーシャルメディア等ネットでの人と人とのつながりが重要になっている | 2.53 | 1.10 |
| 15 自分の職業では、仕事で英語を使うことが多くなっている                | 2.29 | 1.21 |
| 16 自分の職業では、よりレベルの高い英語力が必要になっている              | 2.19 | 1.19 |
| 17 自分の職業では、中国語が必要なことが多くなっている                 | 1.95 | 1.09 |
| 18 自分の職業では、英語、中国語以外の外国語が必要になっている             | 1.93 | 1.07 |
| 19 自分の職業では、関係者とチームで働くことが多くなっている              | 2.98 | 1.17 |
| 20 自分の職業では、関係者とチームで働くことが重要になっている             | 3.06 | 1.18 |
| 21 自分の職業では、同業他社や関係者との情報交換が重要になっている           | 3.23 | 1.07 |
| 22 自分の職業では、人脈を広げることが仕事をする上で重要になっている          | 3.27 | 1.11 |
| 23 自分の職業では、顧客との関係で神経を使うことが多くなっている            | 3.49 | 1.11 |
| 24 自分の職業では、顧客との間でトラブル処理が重要になっている             | 3.31 | 1.11 |
| 25 自分の職業では、評価が行われ、それが給与や報酬に反映されるようになった       | 2.85 | 1.18 |
| 26 自分の職業では、評価が以前よりも厳しくなっている                  | 3.24 | 1.00 |
| 27 自分の職業では、成果を数字で求められるようになった                 | 3.14 | 1.14 |
| 28 自分の職業では、より短期間で成果を求められるようになった              | 3.19 | 1.08 |

注)最も高い平均値と最も低い平均値に着色(白黒印刷では灰色)している。

## 5. 業種、職種別の内容面の変化

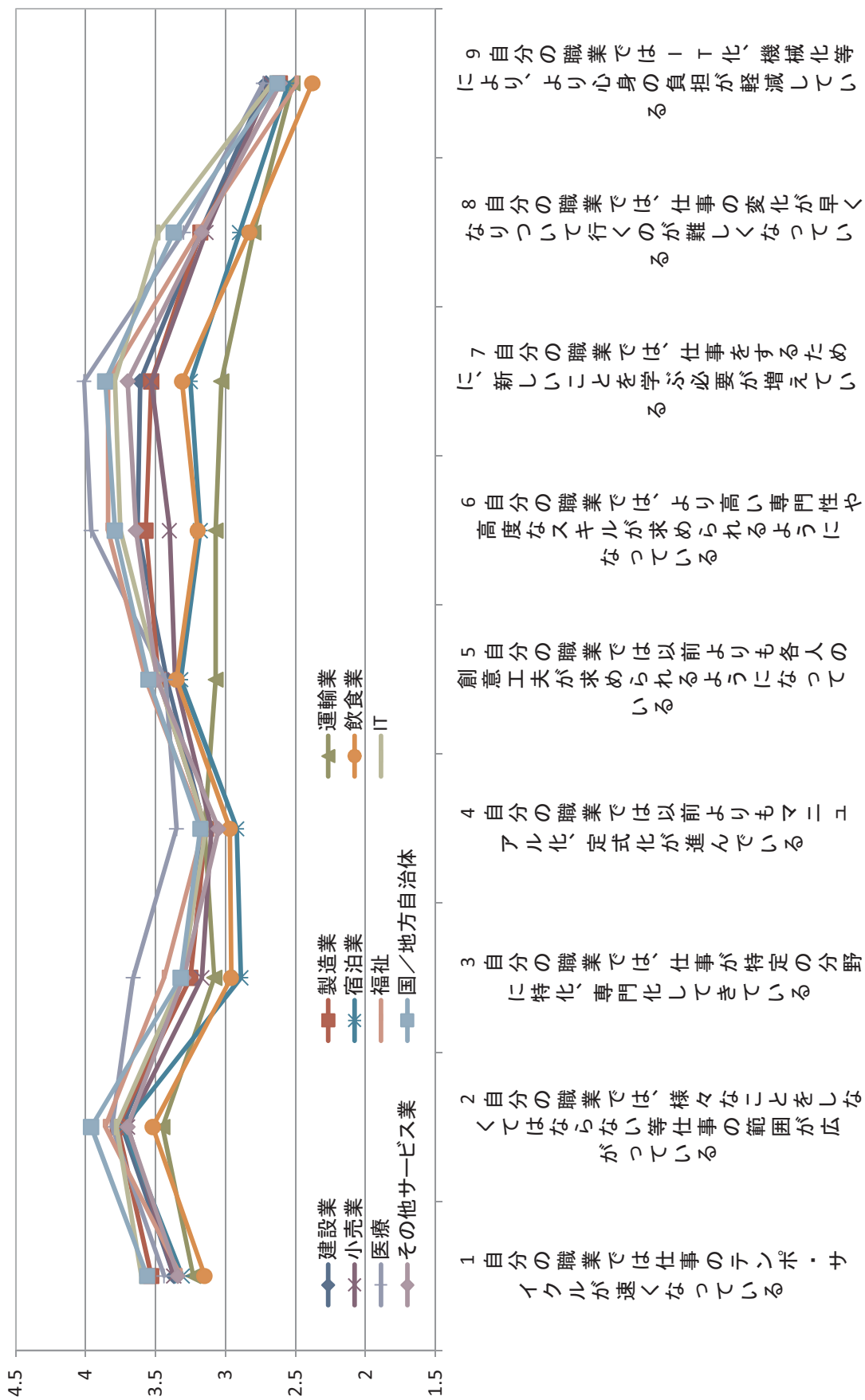
現職の変化を尋ねる 28 項目について、業種別、職種別に平均値と標準偏差を求めた。結果を図表 5-41 と図表 5-42 に示す。なお、業種において「その他」と回答したデータは、内容が明確でないため図表に含めなかった。

図表 5-41 より、「13.自分の職業では、IT (PC、情報機器、ネット) の利用活用が重要になっている」に関して「IT」業種の平均値が最も高く、妥当な結果であった。「IT」業種は「15.自分の職業では、仕事で英語を使うことが多くなっている」、「16.自分の職業では、よりレベルの高い英語力が必要になっている」においても比較的高い値を示した。これらの英語に関する設問に対しては「宿泊業」が最も高い値を示しており、「17.自分の職業では、中国語が必要なことが多くなっている」、「18.自分の職業では、英語、中国語以外の外国語が必要になっている」のような語学全般に関する設問で平均値が最も高かった。全体の傾向で見ると外国語の必要性は高まっていないものの、特定の業種では他の業種よりも必要性が高いとする回答傾向が見られた。

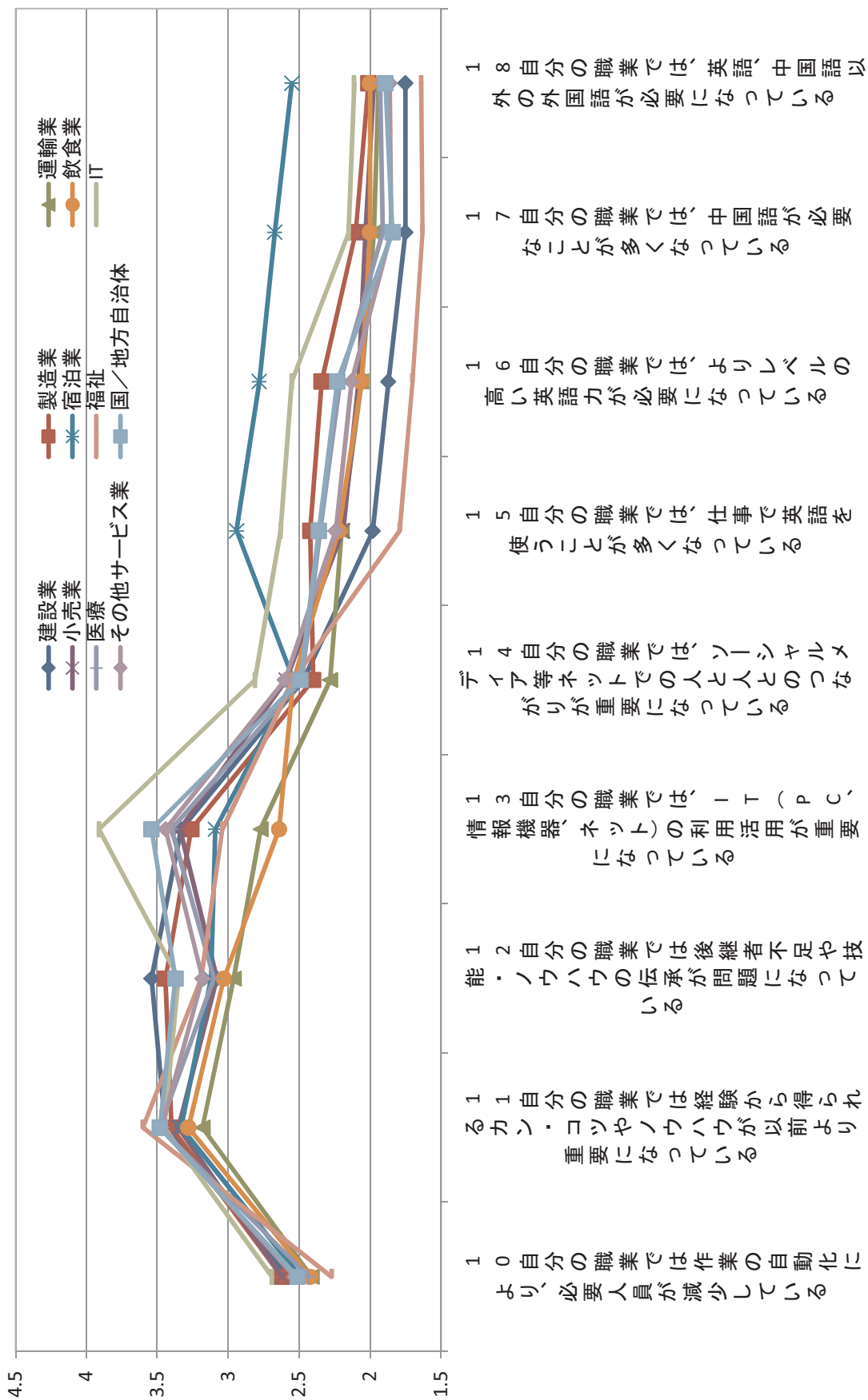
また、「運輸業」では多くの設問で低い値を示しており、あまり変化が見られない業種といえる。

図表 5-42 では、「運搬・清掃・包装等の職業」が多くの設問で低い値を示していた。この職種では全般的にあまり変化が見られないといえる。

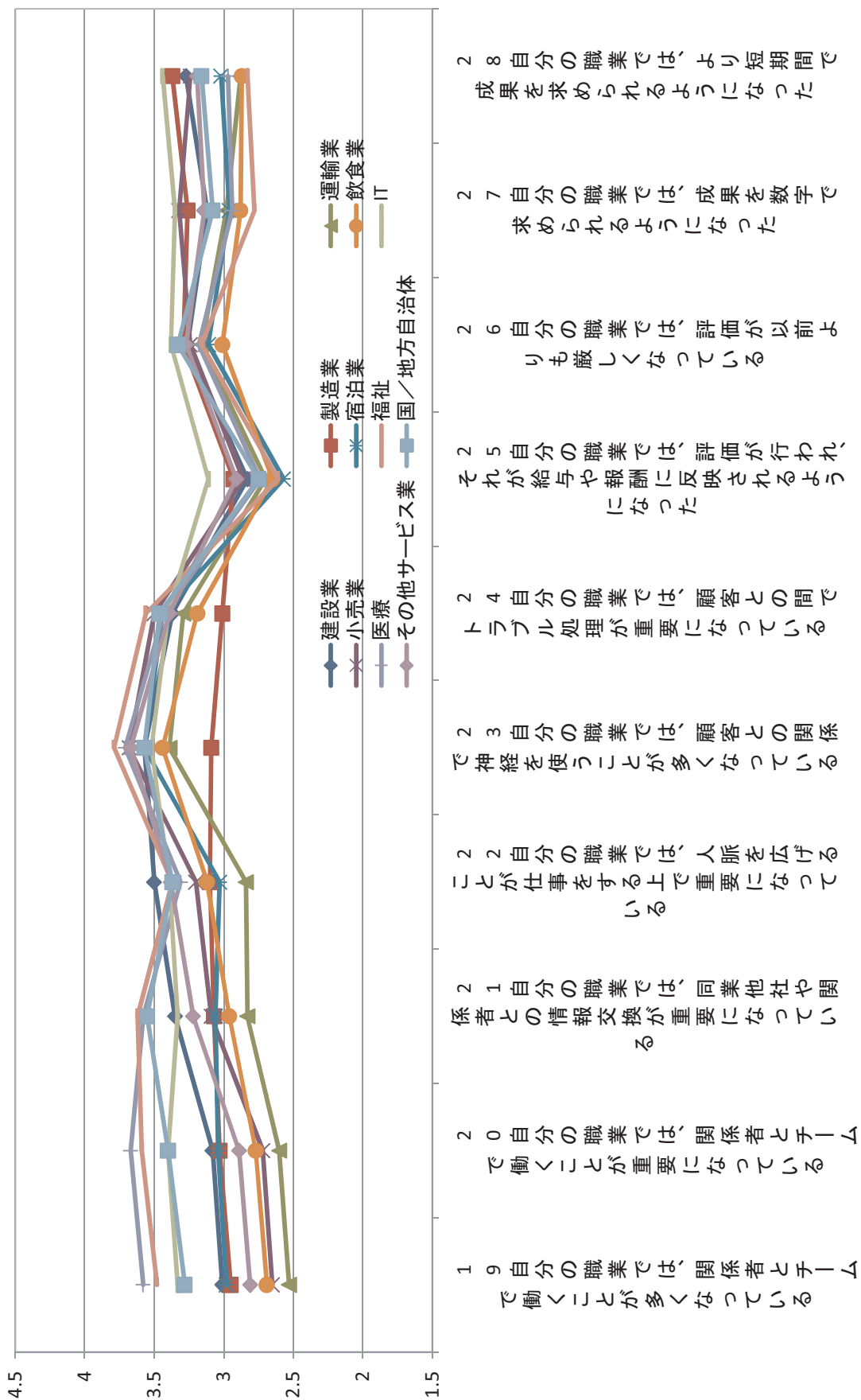
図表 5-41 現職の変化における業種別平均値(項目 1—9)



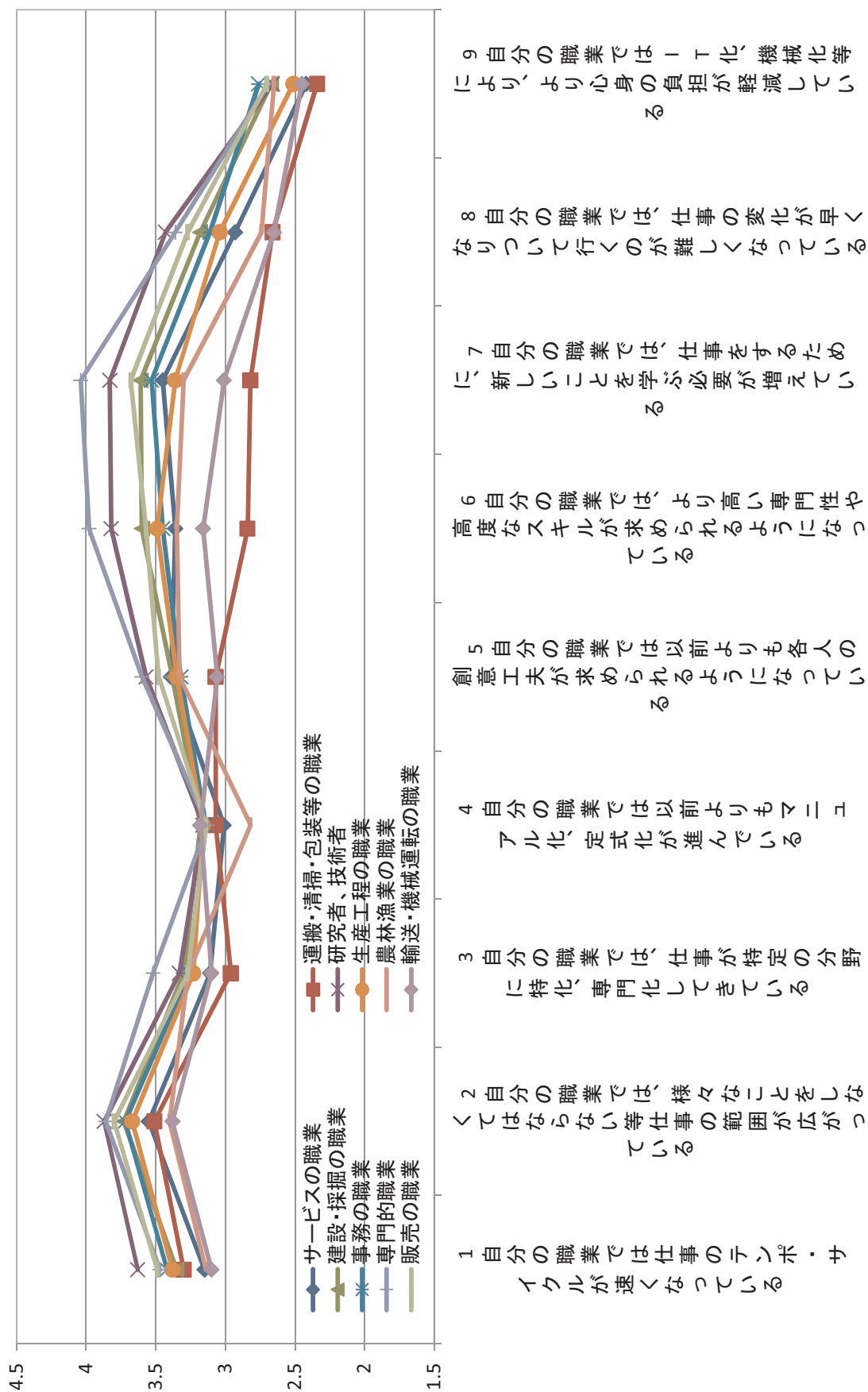
図表 5-41 現職の変化における業種別平均値(項目 10—18)



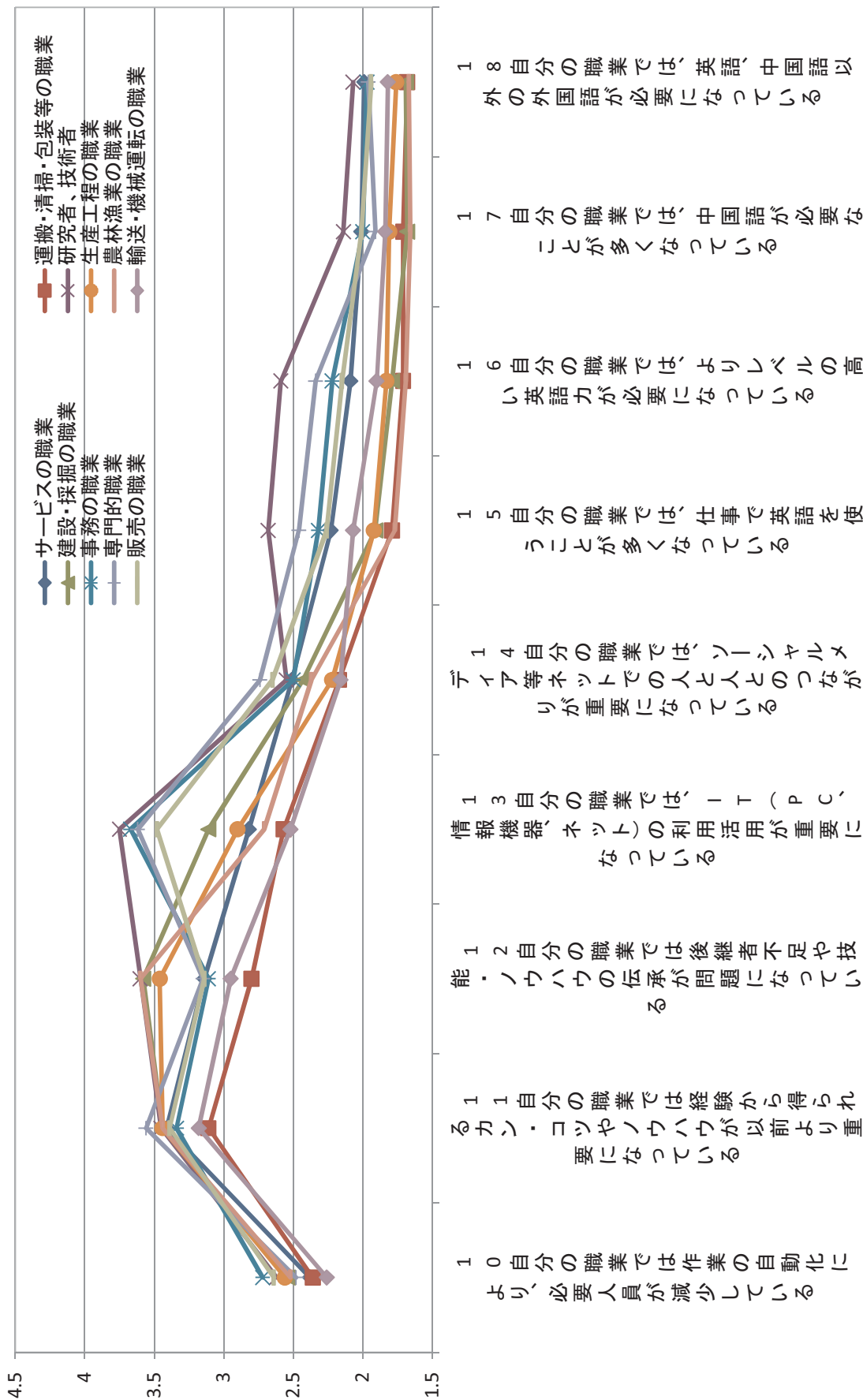
図表 5-41 現職の変化における業種別平均値(項目 19—28)



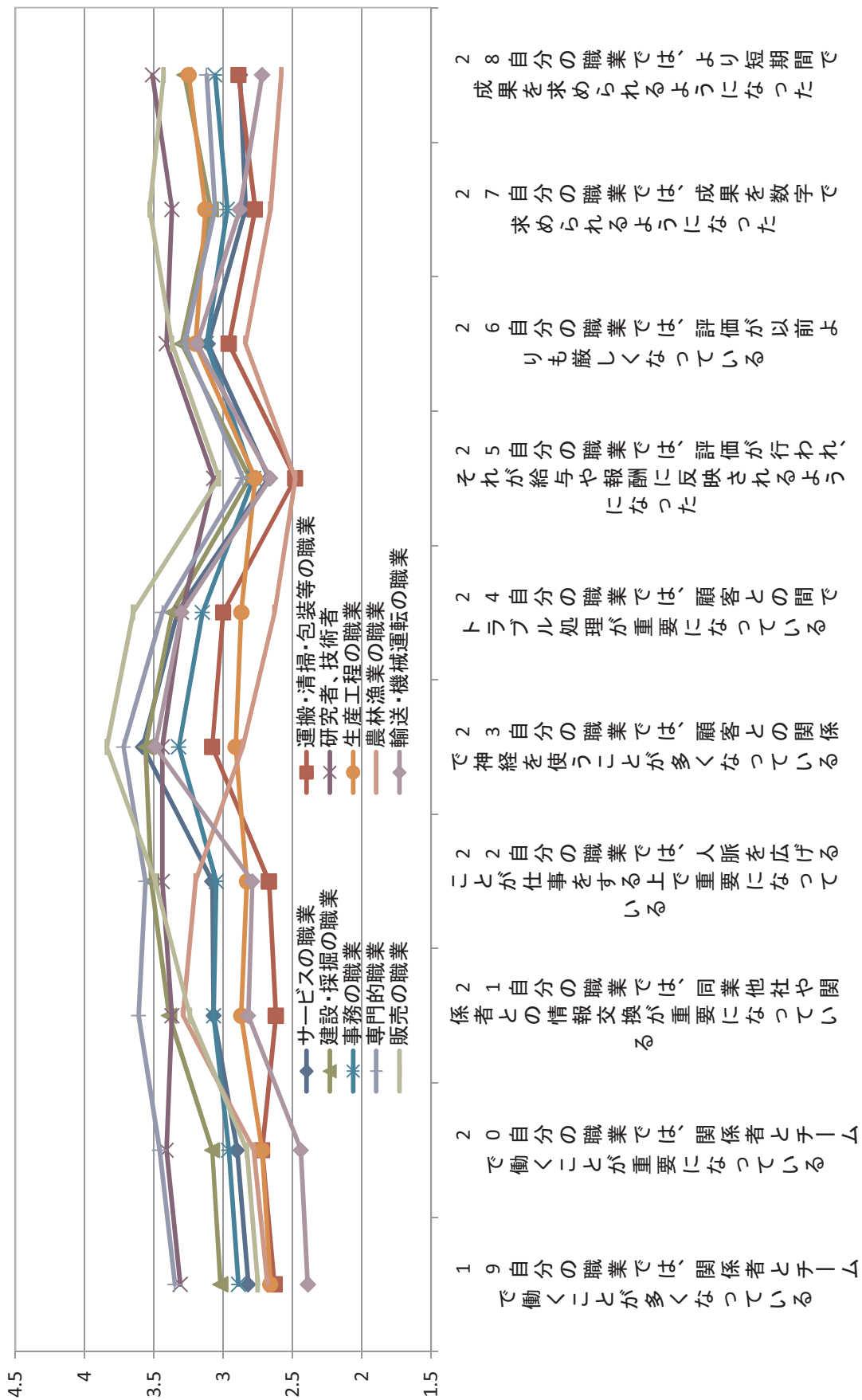
図表 5-42 現職の変化における職種別平均値(項目 1—9)



図表 5-42 現職の変化における職種別平均値(項目番号 10—18)



図表 5-42 現職の変化における職種別平均値(項目番号 19—28)





## 6. 主成分分析、因子分析による内容面の変化の検討

現職の変化に関する 28 項目について、主因子法プロマックス回転により因子分析を行った（図表 5-43）。第 1 因子は「自分の職業では、より高い専門性や高度なスキルが求められるようになってきている」をはじめとして、仕事で求められる範囲が拡大し、より専門性や創意工夫を必要とする難しい内容となっていることを表す設問に負荷が高いことから「高度化」とした。第 2 因子は語学に関する設問に負荷が高いことから「語学力」とした。第 3 因子は成果や評価に関する設問に負荷が高いことから「成果主義」とした。第 4 因子は顧客や同業者との関係に関する設問に負荷が高いことから「顧客や同業者との関係」とした。第 5 因子はチームで働くことに関する設問に負荷が高いことから「チームワーク」とした。第 6 因子は作業の IT 化や機械化に関する設問に負荷が高いことから「機械化・自動化」とした。

また、主成分法バリマックス回転を用いた分析も行っている（図表 5-44）。結果はいずれの分析も同様であり、同一の 6 要素が抽出され、同一の要素に対して同一の項目が負荷していた。

図表 5-43 内容面の変化に関する因子分析結果(主因子法・プロマックス回転)

|   | 因子1   | 因子2   | 因子3   | 因子4   | 因子5   | 因子6   |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 自分の職業では、より高い専門性や高度なスキルが求められるようになってきている    | .903  | .002  | -.083 | -.012 | -.045 | -.049 |
| 自分の職業では、仕事をするために、新しいことを学ぶ必要が増えている         | .823  | .001  | -.068 | .068  | -.039 | -.034 |
| 自分の職業では以前よりも各人の創意工夫が求められるようになってきている       | .657  | .018  | -.005 | .002  | -.039 | -.011 |
| 自分の職業では、様々なことをしなくてはならない等仕事の範囲が広がっている      | .574  | -.064 | .189  | -.055 | .040  | -.172 |
| 自分の職業では経験から得られるカン・コツやノウハウが以前より重要になっている    | .525  | -.020 | -.085 | .093  | -.013 | -.050 |
| 自分の職業では、仕事の変化が早くなりついて行くのが難しくなっている         | .484  | .026  | .191  | -.025 | -.031 | .156  |
| 自分の職業では、仕事が特定の分野に特化、専門化してきている             | .471  | -.042 | -.059 | -.045 | .026  | .135  |
| 自分の職業では仕事のテンポ・サイクルが速くなっている                | .450  | -.008 | .249  | -.165 | .081  | -.053 |
| 自分の職業では、IT(PC、情報機器、ネット)の利用活用が重要になっている     | .365  | .046  | .042  | .119  | .000  | .202  |
| 自分の職業では後継者不足や技能・ノウハウの伝承が問題になっている          | .355  | .015  | .094  | .028  | .004  | .024  |
| 自分の職業では、よりレベルの高い英語力が重要になっている              | .074  | .937  | .022  | -.053 | -.002 | -.085 |
| 自分の職業では、仕事で英語を使うことが多くなっている                | .094  | .887  | .010  | -.036 | -.001 | -.079 |
| 自分の職業では、英語、中国語以外の外国語が必要になっている             | -.113 | .837  | .001  | -.001 | .010  | .049  |
| 自分の職業では、中国語が必要になることが多くなっている               | -.113 | .831  | .029  | -.007 | .000  | .027  |
| 自分の職業では、成果を数字で求められるようになった                 | -.041 | .022  | .817  | .061  | -.024 | .018  |
| 自分の職業では、より短期間で成果求められるようになった               | .056  | .029  | .778  | .006  | .003  | -.026 |
| 自分の職業では、評価が以前よりも厳しくなっている                  | .021  | -.024 | .677  | .113  | -.008 | -.018 |
| 自分の職業では、評価が行われ、それが給与や報酬に反映されるようになった       | -.024 | .070  | .425  | .057  | .043  | .124  |
| 自分の職業では、顧客との関係で神経を使うことが多くなっている            | -.028 | -.073 | .083  | .855  | -.054 | -.106 |
| 自分の職業では、顧客との間でトラブル処理が重要になっている             | -.092 | -.046 | .188  | .733  | -.040 | -.045 |
| 自分の職業では、人脈を広げることが仕事をする上で重要になっている          | .177  | .057  | -.058 | .568  | .051  | .043  |
| 自分の職業では、同業他社や関係者との情報交換が重要になっている           | .163  | .036  | -.114 | .487  | .193  | .044  |
| 自分の職業では、関係者とチームで働くことが重要になっている             | -.009 | -.009 | .006  | .018  | .957  | -.023 |
| 自分の職業では、関係者とチームで働くことが多くなっている              | -.018 | .010  | .005  | -.015 | .950  | .003  |
| 自分の職業ではIT化、機械化等により、より心身の負担が軽減している         | .026  | -.050 | -.054 | -.032 | .001  | .686  |
| 自分の職業では作業の自動化により、必要人員が減少している              | -.080 | -.016 | .103  | -.090 | -.029 | .681  |
| 自分の職業では、ソーシャルメディア等ネットでの人と人とのつながりが重要になっている | .069  | .262  | -.066 | .189  | -.040 | .339  |
| 自分の職業では以前よりもマニュアル化、定式化が進んでいる              | .170  | -.101 | .177  | -.117 | .071  | .255  |
| 因子間相関                                     | 因子1   | .160  | .528  | .584  | .446  | .282  |
|   | 因子2   |       | .223  | .238  | .295  | .460  |
|   | 因子3   |       |       | .459  | .289  | .260  |
|   | 因子4   |       |       |       | .400  | .251  |
|   | 因子5   |       |       |       |       | .214  |

図表 5-44 内容面の変化に関する主成分分析結果(主成分法・バリマックス回転)

|   | 主成分1  | 主成分2  | 主成分3  | 主成分4  | 主成分5  | 主成分6  |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 自分の職業では、より高い専門性や高度なスキルが求められるようになっていく      | .785  | .002  | .114  | .204  | .096  | .049  |
| 自分の職業では、仕事をするために、新しいことを学ぶ必要が増えている         | .744  | .011  | .136  | .265  | .103  | .057  |
| 自分の職業では以前よりも各人の創意工夫が求められるようになっている         | .671  | .047  | .116  | .158  | .033  | .042  |
| 自分の職業では、様々なことをしなくてはならない等仕事の範囲が広がっている      | .619  | -.078 | .317  | .014  | .159  | -.143 |
| 自分の職業では経験から得られるカン・コツやノウハウが以前より重要になっている    | .608  | .009  | -.027 | .209  | .007  | -.048 |
| 自分の職業では、仕事の変化が早くなりついて行くのが難しくなっている         | .538  | .106  | .331  | .115  | .054  | .232  |
| 自分の職業では仕事のテンポ・サイクルが速くなっている                | .516  | .013  | .371  | -.139 | .212  | -.018 |
| 自分の職業では、仕事特定の分野に特化、専門化してきている              | .509  | -.018 | .006  | .024  | .140  | .258  |
| 自分の職業では後継者不足や技能・ノウハウの伝承が問題になっている          | .470  | .079  | .161  | .117  | .013  | .034  |
| 自分の職業では、IT(PC、情報機器、ネット)の利用活用が重要になっている     | .436  | .141  | .162  | .278  | .068  | .287  |
| 自分の職業では、よりレベルの高い英語力が必要になっている              | .087  | .894  | .109  | .041  | .099  | .068  |
| 自分の職業では、英語、中国語以外の外国語が必要になっている             | -.044 | .872  | .061  | .032  | .071  | .128  |
| 自分の職業では、仕事で英語を使うことが多くなっている                | .108  | .869  | .103  | .052  | .098  | .062  |
| 自分の職業では、中国語が必要になることが多くなっている               | -.042 | .867  | .084  | .022  | .060  | .108  |
| 自分の職業では、成果を数字で求められるようになった                 | .187  | .108  | .795  | .186  | .020  | .074  |
| 自分の職業では、より短期間で成果求められるようになった               | .259  | .105  | .770  | .147  | .050  | .031  |
| 自分の職業では、評価が以前よりも厳しくなっている                  | .207  | .039  | .747  | .207  | .041  | .028  |
| 自分の職業では、評価が行われ、それが給与や報酬に反映されるようになった       | .068  | .151  | .562  | .149  | .102  | .194  |
| 自分の職業では、顧客との関係で神経を使うことが多くなっている            | .225  | -.037 | .284  | .741  | .052  | -.066 |
| 自分の職業では、人脈を広げることが仕事をする上で重要になっている          | .318  | .137  | .115  | .689  | .150  | .079  |
| 自分の職業では、顧客との間でトラブル処理が重要になっている             | .154  | .004  | .364  | .684  | .043  | -.014 |
| 自分の職業では、同業他社や関係者との情報交換が重要になっている           | .290  | .118  | .040  | .626  | .323  | .084  |
| 自分の職業では、関係者とチームで働くことが多くなっている              | .184  | .172  | .103  | .175  | .897  | .050  |
| 自分の職業では、関係者とチームで働くことが重要になっている             | .201  | .151  | .110  | .204  | .892  | .029  |
| 自分の職業ではIT化、機械化等により、より心身の負担が軽減している         | .065  | .136  | -.009 | .065  | .020  | .767  |
| 自分の職業では作業の自動化により、必要人員が減少している              | -.015 | .178  | .135  | -.021 | -.034 | .745  |
| 自分の職業では以前よりもマニュアル化、定式化が進んでいる              | .207  | -.078 | .284  | -.140 | .219  | .436  |
| 自分の職業では、ソーシャルメディア等ネットでの人と人とのつながりが重要になっている | .148  | .420  | .003  | .328  | -.034 | .424  |
| 寄与率                                       | 14.9  | 12.4  | 10.5  | 9.0   | 6.9   | 6.6   |
| 累積寄与率                                     | 14.9  | 27.3  | 37.8  | 46.8  | 53.7  | 60.3  |

## 7. 内容面の主成分得点からみた業種と職種

第6節で得られた6主成分について求めた主成分得点の業種および職種別平均値を図表5-45と図表5-46に示す。主成分得点は全体の平均値が0になるため、各業種(職種)の平均値は他の業種(職種)と相対的に比較して得点が高いかどうかを示したものである。なお、業種において「その他」と回答したデータは、内容が明確でないため図表に含めなかった。

図表5-45より、「国/地方自治体」、「医療」、「福祉」、「IT」において「高度化」の得点が相対的に高かった。「語学力」に関しては「宿泊業」の得点が高かった。インバウンドの拡大に伴い訪日外国人への対応が求められるようになったため、英語をはじめとして様々な言語の必要が高まっていると推測される。「IT」業種も得点が高かったが、図表5-41より英語以外の言語に関する設問では項目平均値が低下していたため、特に英語が必要とされていると読み取れる。

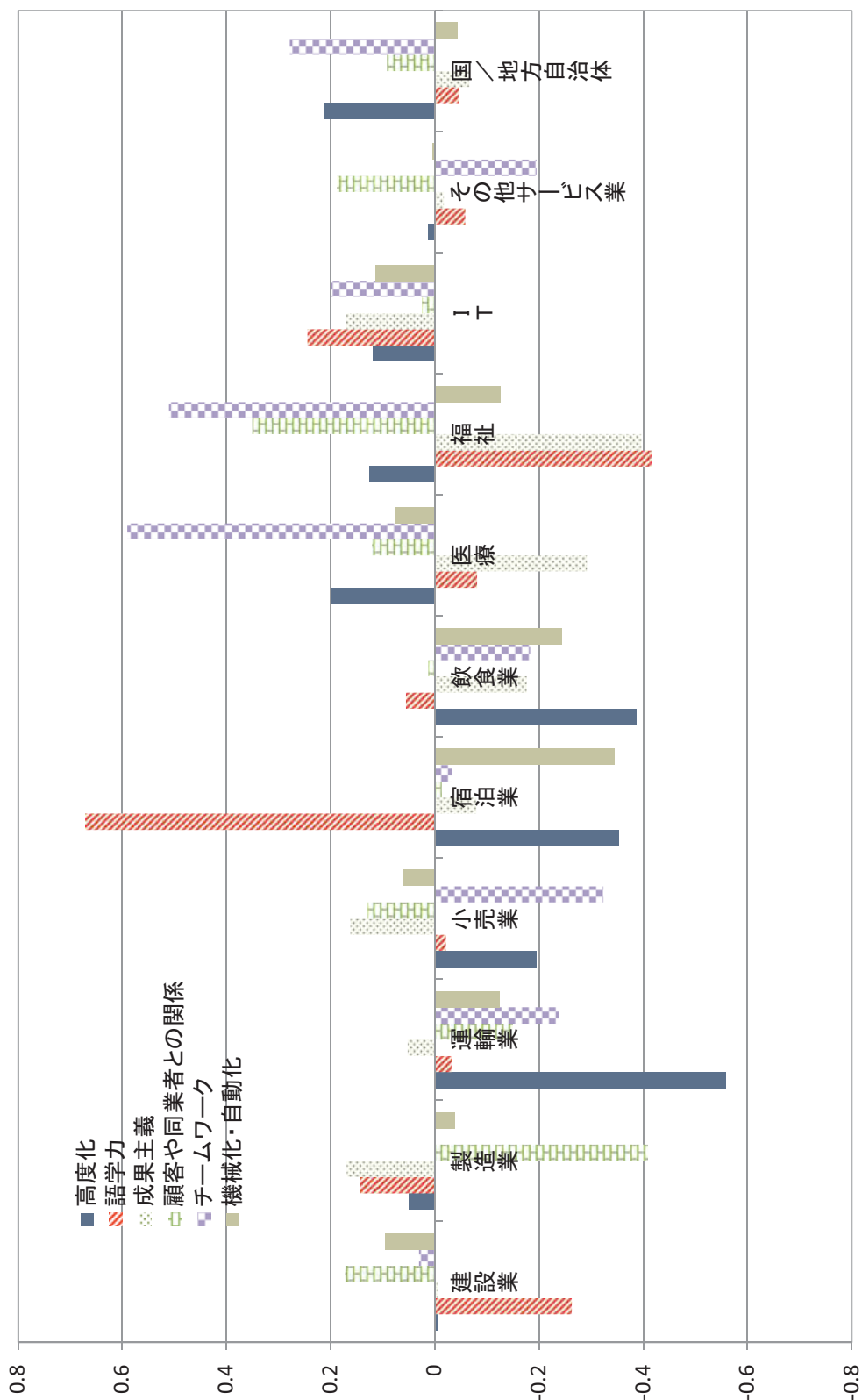
「成果主義」は「福祉」と「医療」で低くなっており、短期的に結果を出すことと馴染まないというこれらの業種の特徴を反映していると考えられる。「顧客や同業者との関係」は「製造業」で低くなっていた。この結果は対人接触が少ない職業が製造業に多く含まれるためであろう。

「チームワーク」は「医療」と「福祉」で得点が高かった。理由は2点考えられる。第一に、チーム医療の重要性が高まっている例からわかるように、おのおの業種内でチームアプローチがとられるようになっているためである。第二に、医療と福祉という異なる業種間での連携も求められるようになっているためである。これらの現状が反映されたと考えられる。「機械化・自動化」は「宿泊業」や「飲食業」のような、顧客との細やかなコミュニケーションが求められる業種において得点が低かった。

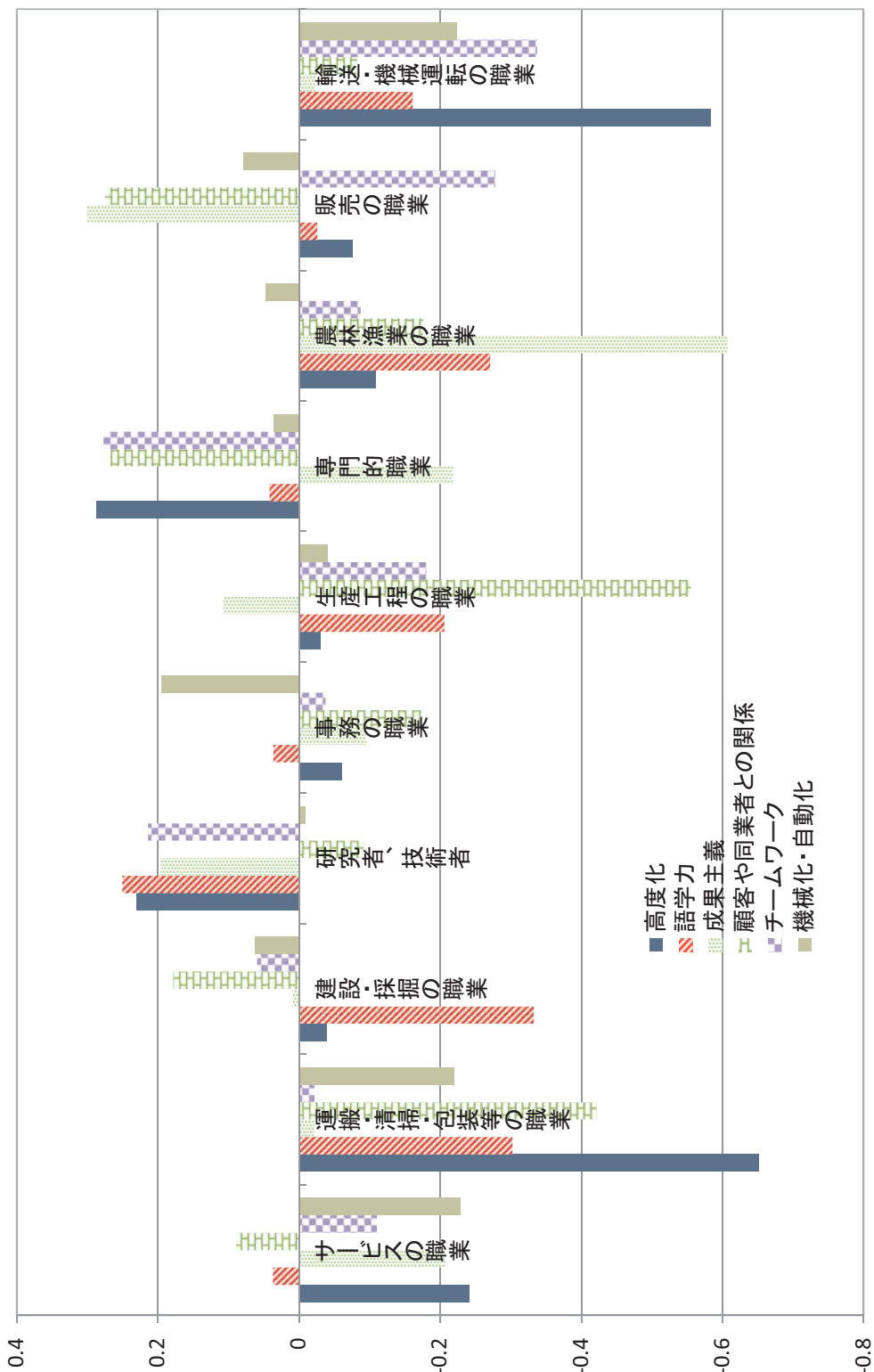
図表 5-46 からは、「専門的職業」で「高度化」の得点が最も高いという妥当な結果が得られた。「語学力」に関しては「研究者、技術者」の得点が高かったが、図表 5-42 より英語以外の言語に関する設問では項目平均値が低下しており、特に英語が必要とされているとわかる。「成果主義」は営業職などを含む「販売の職業」で最も高く、課せられるノルマや責務が重くなっていることが読み取れる。「顧客や同業者との関係」は「生産工程の職業」で最も低くなっていた。この結果は、製造業で「顧客や同業者との関係」の得点が最も低いという結果と一致している。「チームワーク」は「専門的職業」で最も得点が高かった。多くの専門職において、職務内容の専門化や高度化が進むにつれて分業化が進行し、各々の分野において高い専門性を有する複数のスタッフによるチームワークが重視されるようになってきたという現状を考慮すれば、妥当な結果であろう。「機械化・自動化」は「事務の職業」で最も得点が高く、IT 化やマニュアル化が事務職で特に進行しているといえる。また、「運搬・清掃・包装等の職業」と「輸送・機械運転の職業」ではすべての得点が負の値をとっていた。この結果は設問ごとの職種別平均値と同様の傾向である。

また、100 名以上の回答が得られた職業について、各主成分得点の平均値を求めた。平均値が高い上位 5 位までの職業を以下に示す（職業名順）。「高度化」に関しては「看護師」、「経営コンサルタント（中小企業診断士など）」、「小学校教員」、「診療放射線技師」、「保育士」で平均値が高かった。「語学力」に関しては「ホテル・旅館フロント係」、「化学技術者（開発業務）（石油製品、プラスチック製品、化学繊維、医薬品、化粧品、塗料、化学肥料、油脂製品など）」、「観光案内人（旅行・観光ガイド）」、「大学教員」、「貿易事務員」のような職業で平均値が高かった。「成果主義」は「スーパーマーケット店員」、「医薬情報担当者(MR)、医薬品卸販売担当者(MS)」、「銀行等渉外係（銀行、信用金庫、信用協同組合など）」、「情報処理プロジェクトマネージャ」、「保険営業員（生命保険・損害保険の募集）」で高い傾向が見られた。「顧客や同業者との関係」は「医療ソーシャルワーカー（MSW、PSW）」、「介護支援専門員（ケアマネージャー）」、「美容師」、「保険代理人（保険代理店での保険契約などの代理・媒介）」、「理容師」のような職業で高かった。「チームワーク」は「医療ソーシャルワーカー（MSW、PSW）」、「看護師」、「作業療法士」、「診療放射線技師」、「理学療法士」など医療従事者で特に高かった。「機械化・自動化」は「ファイナンシャル・プランナー」、「税理士」、「保険営業員（生命保険・損害保険の募集）」、「保険事務員（物損事故調査、損害査定、保険金支払い、郵便局保険窓口など）」、「保険代理人（保険代理店での保険契約などの代理・媒介）」で高かった。

図表 5-45 主成分得点の業種別平均値 (n=26,586)



図表 5-46 主成分得点の職種別平均値 (n=26,586)



## 8. 量的変化と内容面の変化のまとめ

本章では、まず、現職の人数等の変化について、全体および業種・職種別に回答の度数分布を求め、調査時点において各職業がどのような変化のもとにあるのかを業種、職種別にみた。全体的傾向としては、例えば、女性の採用が従来と変わらないか増えている傾向にある一方で、正社員数が変わらないか減っており、収入も減少している傾向が示された。ただし、業種別の傾向からは、「建設業」、「製造業」、「運輸業」で女性が少ないという業種に固有の特徴も見られた。職種別の傾向としては、「専門的職業」が拡大傾向にあることが示唆された。

次に、現職の内容面の変化について、業種別、職種別にみるとそれぞれの変化の状況が示された。また、現職の変化を尋ねる質問項目について主成分分析を行うと、6主成分にまとめられ、「高度化」、「語学力」、「成果主義」、「顧客や同業者との関係」、「チームワーク」、「機械化・自動化」と考えられるものであった。この6主成分により業種別、職種別傾向を見たところ、妥当と考えられる結果が得られ、それぞれの特徴的な変化を端的にまとめられるものとなっていた。